

# 2023 年度 履修要覧

現代経営研究科現代経営専攻（修士課程）



東洋学園大学大学院（現代経営研究科現代経営専攻 修士課程）  
2023年度履修要覧・シラバス 目次

履修要覧

I. 東洋学園大学大学院 現代経営研究科 によるこそ	1
II. 本学の沿革と構成	
1. 本学の沿革	2
2. 本学の構成（研究科、学部・学科の紹介）	2
III. 現代経営研究科の教育目標（3ポリシー）	5
IV. 東洋学園大学大学院学則	7
V. 履修の手引	
1. 単位制と課程の修了要件	21
2. 授業科目の構成と履修モデル	21
(別表)	25
3. 授業時間	23
4. 試験と成績	26
5. 修士論文の指導と審査	29
VI. その他	
1. 研究活動上の不正行為防止について	34
2. 1号館7階（大学院生フロア）の使用について	35

シラバス

学事日程	36
【基礎研究科目】	
マーケティング研究	隈本 純 37
アカウンティング研究	小川 華代 39
ファイナンス研究	富田 洋介 41
人的資源研究	横山 和子 43
経営学手法研究	富田 洋介 45
【基幹研究科目】	
経営管理研究	赤尾 充哉 47
マーケティング戦略研究	隈本 純 49
経営戦略研究	李 新建 51

人的資源戦略研究	横山 和子	53
財務会計研究	富田 洋介	55
管理会計研究	小川 華代	57
ファイナンス戦略研究	富田 洋介	59
不動産運用設計	富田 洋介	61
パーソナルファイナンス	富田 洋介	63
リスクマネジメント	畔上 秀人	65
特別講義 I	清水 由美	67
特別講義 II	清水 由美	69

#### 【関連研究科目】

ビジネス経済研究	田中 巖	71
ビジネス法律研究	北島 純	73
欧米ビジネス研究	セーラ バーチュリ	75
中国ビジネス研究	李 新建	77

#### 【実践研究科目】

ケーススタディ 1 (マーケティング)	隈本 純	79
ケーススタディ 2 (ファイナンス)	畔上 秀人	81
ケーススタディ 3 (ヒューマン・リソース)	横山 和子	83

#### 【課題研究科目】

現代経営特別演習	研究指導スケジュール	85
	畔上 秀人	86
	李 新建	86
	隈本 純	87
	田中 巖	87
	セーラ バーチュリ	88
	赤尾 充哉	88
	安藤 拓生	89
	富田 洋介	89
	小川 華代	90

#### 【基礎科目】

経営学研究	安藤 拓生・赤尾 充哉	91
-------	-------------	----

## I. 東洋学園大学大学院 現代経営研究科 によろこそ

東洋学園大学 学長 辻中 豊

自彊不息（じきょうやまず）の丘、本郷台地の先端にある東洋学園大学によろこそ！

この大学院便覧は、皆さんがこれから送る大学院生活という旅の、とても大切な羅針盤であり、地図です。ちょっと面倒かもしれませんが、はじめにしっかり全体を眺め、そして気になるところから読んでみましょう。

たくさん規則や説明、案内そして、さまざまな大学からのサービス、気を付けること、窓口の案内などが記載されています。わからないところは、教員、職員に遠慮なく聞いてみましょう。先輩に聞くのも大切ですね。この便覧は、皆さんと大学との約束の束ですから、ちょっと困ったとき、迷ったときには、この便覧を読み直してみてください。

さて、自彊不息の丘、といいましたが、この言葉、「自彊不息」は、東洋学園大学の建学の精神です。といっても、とても古い言葉（『易経』が出典）ですので、説明が必要ですね。

自彊の「彊」という字は、強という字に書き替えられますが、もともとはこの難しい字です。よく見ると、弓と一と田と一と田と一から成っています。田んぼを区切り弓で守る、という意味を示す象形文字のようですね。つまり、自彊不息というのは、自分の愛するフィールドをしっかりと休みなく、自分で強化し続ける、ということですね。たゆまず自ら努めて励む、学び続けることですが、まず大切なのは、自分の好きなフィールドを見つけ、それを続けていくことです。好きなフィールドさえ見つかれば、難しいことではないでしょう。

とはいっても、自分の好きなフィールド（研究テーマ）とは、何でしょう、どのように見つけるのでしょうか。漢字が示すように昔のお百姓さんには田んぼや畑ですが、21世紀に生きる今の皆さんにとっては何でしょう。東洋学園大学は、時代の変化に応える国際人を育てる面倒見のよい大学です。皆さんが、この大学院生活の中で、一生、考え続けていける、好きなフィールドを見つけてほしい、そのための助力をしっかりとしたいと私たちは考えています。

本郷台地の先端にあるこの地は、皆さんが自分の好きなフィールドを見つけ、探究するのにとてもよい場です。江戸時代には、近くの湯島の聖堂で人々が学び、その後、明治以降の近代化の中で、日本が海外の知との間で格闘し切磋琢磨した場が、この本郷台地なのです。ここから、今も様々な道や線路が伸び、現代社会の成長の先端部分に繋がっています。

それでは、この本郷キャンパスで、現代という時代をみつめ格闘しながら、しっかりと自彊不息の、自分のフィールド（研究テーマ）を見出し、オリジナルな論文を書く旅に、出掛けていきましょう。楽しい旅によろこそ。

## II. 本学の沿革と構成

### 1. 本学の沿革

本学の設立母体である学校法人東洋学園の歴史は、1926（大正 15）年、故宇田尚先生が東京・本郷に創設した財団法人東洋女子歯科医学専門学校に始まる。

東洋女子歯科医学専門学校は、1950（昭和 25）年の学制改革により廃止されるまでの 25 年間で、2,844 名の女性歯科医を世に送り出し、女性の社会進出が立ち遅れていた戦前期に女性の専門的職業教育の分野で大きな足跡を残した。

東洋女子歯科医学専門学校が廃止された 1950 年 4 月、新たに英語教育に重点をおいた東洋女子短期大学が同じ東京・本郷の校地に設立され、以来すでに 60 年の校史を積み重ねている。

この間、1982（昭和 57）年には本郷キャンパスの英語英文科に加え、千葉県流山キャンパスに地域研究を柱とした多角的な国際化教育を行う欧米文化学科を新設するなど、東洋女子短期大学は、女性の自立を目標に、つねに時代を先取りした新しい試みの教育を実践してきたが、2006（平成 18）年に歴史の幕を閉じ、その伝統は本大学に引き継がれることとなった。

学校法人東洋学園は、このような女子高等教育の実績を、より高度に、またより深く掘り下げ、日本の国際化という新たな時代の要請に応えるため、男女共学の 4 年制大学の新設に踏み切った。こうした歴史と背景のもとに、1992（平成 4）年、東洋学園大学が開設されたのである。

開設当初は、人文学部の 1 学部であったが、2002（平成 14）年に本郷キャンパスに現代経営学部を設置し、2 学部を有する大学となった。また、2006（平成 18）年から、教養教育の充実とキャンパス共用化による大学としての一体感の醸成等を目的として、両学部の 1・2 年生は流山キャンパス、3・4 年生は本郷キャンパスで学ぶこととなった。そして、2008（平成 20）年にこれまでの学部教育において展開してきた経営学分野の教育内容を基礎としつつ、学部教育で培われた専門的な素養のある人材として活躍できる基礎的能力に立ち、専門性を一層向上させていくことを目指して、大学院現代経営研究科現代経営専攻修士課程を設置した。さらに、2013 年度の入学生からは人文学部を発展的に解消し、代わりにグローバル・コミュニケーション学部と人間科学部を設置した。そして、前者には、グローバル・コミュニケーション学科と英語コミュニケーション学科を付置し、同時に後者の人間科学部には、専門性を高めるための教育と施設の充実を図っているところである。

### 2. 本学の構成

本学（Toyo Gakuen University）は、「高い理想のもとに深い教養と正しい判断力を身につけ、広い視野と国際的な識見を備えた有能な人材の育成」（学則）という目的を追求するために、グローバル・コミュニケーション学部（Faculty of Global Communications）、人間科学部（Faculty of Human Sciences）、現代経営学部（Faculty of Business Administration）及び現代経営研究科（Graduate School of Business Administration）を有している。

グローバル・コミュニケーション学部は、グローバル・コミュニケーション学科 (Department of Global Communications) と英語コミュニケーション学科 (Department of English Communications) の 2 学科で構成されている。人間科学部は人間科学科 (Department of Human Sciences) の 1 学科で構成されており、現代経営学部は、現代経営学科 (Department of Business Administration) の 1 学科で構成されている。現代経営研究科は、現代経営専攻 (Master's Program in Business Administration) の 1 専攻で構成されている。

## 現代経営研究科

既設の現代経営学部現代経営学科を基礎として、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的としている。

## 現代経営学部

### 現代経営学科

現実に発生するさまざまな経営問題は、世界的な広がりを持ちながら複雑かつ多様化してきている。そのため、経営分野における知識の習得に加えて、主体的に変化に対応し得る、幅広い視野や総合的な判断力、豊かな創造性を兼ね備えた人材の養成が求められる。そこで、現代経営学部では、現実の経営問題を的確に認識し、総合的な企業経営や経営管理が実践できる知識や能力と英知 (Wisdom) を獲得するために必要な教育を行う。

## グローバル・コミュニケーション学部

### グローバル・コミュニケーション学科

グローバル・コミュニケーション学科は、日本や諸外国の文化・社会に関する知識をもち、グローバル社会の諸課題について理解することにより、社会事象を正確に判断し、自己の考えを的確に発信できる現代教養人としてのコミュニケーション能力を有する人材の育成を目指す。

### 英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科は、①英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、実践的な英語のトレーニングを通じて、英語によるコミュニケーション能力を養うことにより、グローバルビジネスや文化関連産業で活躍できる人材、②英語に関する専門的な知識を身につけ、英語教育に関する基礎理論や指導法について理解することにより、英語教育活動に必要なコミュニケーション能力を有する人材の育成を目指す。

## 人間科学部

### 人間科学科

人間科学科では、人間に関わる諸問題を深く多角的に理解することにより、①人のこころとからだの健康の維持・増進・改善等に参与し、充実した幸せな暮らしの実現に寄与することのできる能力と②社会の様々な場面における人間関係を調整する能力を修得し、豊かで実りある人と人とのつながりの実現に貢献することのできる人材の育成を目指す。



### Ⅲ. 現代経営研究科の教育目標（3ポリシー）

#### 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

大学院現代経営研究科では、以下の各能力を身につけ、学則に定める修了要件を満たした者に対し、修了を認定し、修士（経営学）の学位を授与する。

DP-1 現代社会の変化と、それにもなつて出現している企業や家計における課題を自らとらえることができる。

DP-2 グローバル化がもたらす社会への影響と課題を自らとらえることができる。

DP-3 企業や政府が現代社会に対して担う役割を、自らの手法で分析することができる。

#### 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げる 3 つの能力を修得させるために、以下のような科目を配置する。

CP-1 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。

CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。

CP-3 主要な職能分野の専門的知識を補完し、各自の研究課題に関連した知識を習得する。

CP-4 経営実践現場を想定したロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの技術を習得する。

CP-5 各自の課題について文献調査や実地調査を行い、研究成果を論文の形で公表する能力を涵養する。

#### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

大学院現代経営研究科では、次のような能力・意欲・関心を有する学生を、各種選抜試験を通じて受け入れる。

AP-1 最新の学術的な経営の知識を習得し、その知識を実践的な場に応用することを目指そうとする人材

AP-2 複雑な現代社会における企業経営について学際的視点から論理的に分析しようとする人

材

AP-3 実務的経験を基盤とし、さらに高度な知識や理論を習得することで、自らの研究成果を社会に発信することを目指そうとする人材

#### IV. 東洋学園大学大学院学則

## 目 次

- 第 1 章 総則
  - 第 2 章 課程、研究科、専攻、学生定員及び修業年限
  - 第 3 章 入学、休学、復学、再入学及び転入学
  - 第 4 章 退学、転学、除籍及び復籍
  - 第 5 章 教育課程及び履修方法等
  - 第 6 章 課程の修了等
  - 第 7 章 外国人留学生
  - 第 8 章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生
  - 第 9 章 検定料、入学金、授業料その他の納付金
  - 第 10 章 職員及び事務組織
  - 第 11 章 研究科委員会
  - 第 12 章 賞罰
  - 第 13 章 課外講座
  - 第 14 章 準用規定
  - 第 15 章 学則の変更
- 附 則
- 別 表 1
- 別 表 2

## 第1章 総則

(目的)

第1条 東洋学園大学大学院（以下「本大学院」という）は、東洋学園大学の教育精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業等を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、前条の教育目的及び社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制については、別に定める。

## 第2章 課程、研究科、専攻、学生定員及び修業年限

(課程)

第3条 本大学院に修士課程を置く。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性が求められる職業等に必要の高度の能力を培うことを目的とする。

(研究科・専攻)

第4条 本大学院に現代経営研究科現代経営専攻（修士課程）を置く。

2 現代経営研究科現代経営専攻は、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的とする。

(学生定員)

第5条 本大学院の学生定員は次のとおりとする。

研究科名	専攻名	課程	入学定員	収容定員
現代経営研究科	現代経営専攻	修士課程	10	20

(修業年限及び在学年限)

第6条 修士課程の標準修業年限は2年とする。

2 修士課程の在学年限は4年を超えることができない。

3 転入学の場合にあっては、学長が定める在学すべき年数の二倍に相当する年数を超えることができない。

4 再入学及び復籍の場合にあっては、退学、除籍前の在学年数と通算して4年

を超えることができない。

- 5 第1項の規定にかかわらず、実務の経験を有する者、又は学部において優秀な成績を修め、本大学院において必要とされる基礎的な学識を有する者であって、昼間と併せてその他の特定の時間において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行う場合の標準修業年限は、1年とする。

### 第3章 入学、休学、復学、再入学及び転入学

(入学の時期)

第7条 入学の時期は毎学年の始めとする。

- 2 前項の他にも、必要と認めた場合は、学期の区分に従い入学することができる。

(入学の資格)

第8条 本大学院の修士課程の入学資格者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が三年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が別に定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

(入学の出願)

第9条 本大学院に入学を志願する者は、所定の書類に検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第10条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第11条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、所定の学納金を納付しなければならない。

2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(保証人)

第12条 学生は本大学院入学時、保証人を届出なければならない。

保証人は、保証する学生の身上について一切の責任を負う。

2 保証人の資格その他については別に定める。

(休学)

第13条 病気その他の理由で、引続き2ヵ月以上出席できない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められた者については、学長は休学を命ずることができる。

3 学長は、教育上有益と認められた者については、休学することなく、外国の大学院（学位授与権を有する高等教育機関）又はこれに相当する教育研究機関等に留学することを許可することができる。なお、当該留学期間に係る在学年数の取り扱いについては、別に定める。

(休学の期間)

第14条 休学期間は、第6条の在学年数に算入しない。

2 前項の休学の期間は、春学期末又は秋学期末を終期とし、通算で2年を超えることは出来ない。

(復学)

第15条 休学期間中にその理由が消滅した場合には、学長の許可を得て復学することができる。

2 復学の時期は原則として期の始めとする。

(再入学及び転入学)

第16条 本大学院に再入学、もしくは他の大学院から転入学を志望する者がいるときは、欠員のある場合に限り、選考の上相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て学長が決定する。

## 第4章 退学、転学、除籍及び復籍

(退学及び転学)

第17条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

2 他の大学院へ転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍及び復籍)

第18条 次の各号の一に該当する者は学長が研究科委員会の議を経てこれを除籍する。

(1) 第6条に規定した在学年限を超える者

(2) 休学の期間が通算で2年を超え、なお修学できない者

(3) 長期間にわたり行方不明の者

(4) 授業料その他納付金を所定の期日までに納めず、督促してもなお納付しない者

2 前項(4)号により除籍された者が復籍を願い出るときは、選考の上、相当年次に復籍することができる。

3 前項の規定により復籍を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て学長が決定する。

## 第5章 教育課程及び履修方法等

(教育方法)

第19条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行うものとする。

(授業科目)

第20条 本大学院に設置する授業科目の種類、単位数等は別表1のとおりとする。

(単位の計算方法)

第21条 授業科目の単位数は、東洋学園大学学則第24条第1項の定めを準用して単位計算するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、その学修の成果等を評価して単位を与えることが適切と認められる授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(単位の授与及び学習の評価)

第22条 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には、所定の単位を与える。学習評価の基準は、S、A、B、C、Dの5段階とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。成績審査の方法は、研究科委員会の議を経て学長が定める。



## 第6章 課程の修了等

(課程の修了要件)

第23条 学生は修士課程修了のため、当該課程に2年以上在学し、在学中に別表1に定める授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査に合格しなければならない。但し、第6条第5項に定める者の在学期間は、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 修士論文の審査及び最終試験については、別に定める。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第24条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院の定めるところにより他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、研究科委員会の議を経て学長が認めた場合、10単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得した単位とみなし、前条に規定する修了に必要な単位数に含めることができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学院等に留学する場合に準用する。

(入学前の既修得単位等の認定)

第25条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、研究科委員会の議を経て学長が認めた場合、入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、転入学等の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、前条第1項及び第2項により本大学院において修得したものとみなす単位数と合わせて10単位を超えないものとする。

(他の大学院等における研究指導)

第26条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項の規定により研究指導を受けることのできる期間は、1年を超えないものとする。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学院または研究所等に留学し、研究指導を受ける場合に準用する。

(課程の修了)

第27条 学生が、第23条により所定の要件を満たしたとき、学長は研究科委員会の議を経て課程の修了を認定し、学位記を授与する。

2 修了の時期に関する規程は別に定める。

(学位)

第 28 条 前条により本大学院の課程の修了を認められた者には、次のとおり学位を授与する。

課程	研究科名	専攻名	学位
修士課程	現代経営研究科	現代経営専攻	修士（経営学）

2 学位の授与に関し必要な事項は別に定める。

## 第 7 章 外国人留学生

(外国人留学生)

第 29 条 外国人が、大学院教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願するときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生の入学に関しては第 8 条から第 12 条の規定を適用する。
- 3 外国人留学生には本学則その他本学の定める諸規程を準用する。
- 4 その他外国人留学生に関する規程は別に定める。

## 第 8 章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生

(科目等履修生)

第 30 条 第 8 条に規定する資格を有する者で、本大学院の特定授業科目につき履修しようとする者があるときは、その授業及び研究を妨げない限り、学長は研究科委員会の議を経て、科目等履修生としてこれを許可することができる。

- 2 科目等履修生には、本大学院学則第 22 条の規定を準用して単位を与えることができる。
- 3 科目等履修生に関する規程は別に定める。

(特別聴講学生)

第 31 条 他の大学院の学生で、当該大学院との協議により、本大学院の授業科目を履修し単位を修得しようとする者は、特別聴講学生として履修を許可することができる。

- 2 前項の規定は、大学院以外の教育施設等との協議により、本大学院の授業科目を履修し単位を修得しようとする場合にも準用する。
- 3 前 2 項の規定は、外国の大学院の学生等で当該大学院等との協議により、本大学院の授業科目を履修し単位を修得しようとする場合にも準用する。
- 4 特別聴講学生に関する規程は別に定める。

(研究生)

第 32 条 本大学院において特定の事項について研究することを希望する者があるときは、研究生として、これを許可することができる。

2 研究生に関する規程は別に定める。

## 第 9 章 検定料、入学金、授業料その他の納付金

(検定料等の金額)

第 33 条 本大学院の検定料、入学金、授業料その他の納付金については別表 2 のとおりとする。

2 入学金、授業料その他の納付金は所定の期日までに納めなければならない。

(休学及び退学等の場合の授業料等)

第 34 条 休学期間の授業料は半額とし、維持費、施設設備費は徴収しない。但し、休学した日及び復学した日に属する期分の授業料その他の納付金は全額を徴収する。

2 前項但書にかかわらず、休学した日に属する期分の授業料その他の納付金を徴収する場合において、休学した日が学期の開始日であるときは、前項本文の規定を適用する。

3 学期の途中で退学し又は除籍された者の当該期分の授業料その他の納付金は徴収する。

4 停学期間中の授業料その他の納付金は徴収する。

(納付金の取扱)

第 35 条 既に納めた入学金、授業料その他の納付金はいかなる場合も返却しない。但し、入学時の授業料等納付金については別に定める。

## 第 10 章 職員及び事務組織

(職員組織)

第 36 条 本大学院に、学長、副学長、研究科長、専攻長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

(学長の職務)

第 37 条 学長は、本学を代表し、校務を掌り、所属職員を統督する。

2 学長は、必要に応じ、その職務を補佐する者、若干名を委嘱することができる。

(副学長の職務)

第 38 条 副学長は、学長の職務を助け、又、学長の命を受けた職務を行う。

(研究科長、専攻長の職務)

第 39 条 研究科長は研究科を代表し、研究科に関する校務を掌る。

2 専攻長は、研究科長を補佐し、専攻に関する校務を掌る。

(教育職員の職務)

第 40 条 教授は、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

2 准教授、講師、助教は、教授に準ずる職務に従事する。

3 助手は、教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

(職員の任用)

第 41 条 職員の任用は、学校法人の人事規程によって行う。

(事務組織)

第 42 条 事務の組織及び業務については別に定める。

## 第 11 章 研究科委員会

(研究科委員会の構成)

第 43 条 本大学院の研究科に研究科委員会を置き、次の者をもって構成される。

(1) 研究科長

(2) 専攻長

(3) 教授

(4) 准教授

(5) 講師

(研究科委員会議長)

第 44 条 研究科委員会は研究科長が召集し、その議長となる。

2 研究科長に事故あるときは、研究科長は代理を指名する。

(研究科委員会開会の条件)

第 45 条 研究科委員会は、構成員の三分の二以上の出席がなければ、開会することが出来ない。

(研究科委員会の決議)

第 46 条 研究科委員会の決議は、出席者の過半数の同意による。賛否同数のときは議長の裁決による。

(研究科委員会の召集請求)

第 47 条 研究科長は、構成員の三分の二以上から附議すべき事項を示して研究科委員会の召集を請求された場合、2 週間以内にこれを召集しなければならない。

(研究科委員会の審議事項)

第 48 条 研究科委員会は学長が定める次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 専攻及び課程の設置、廃止に関する事項

(2) 授業科目の編成、変更及び実施に関する事項

(3) 学位授与に関する事項

- (4) 単位の授与、研究指導、学位論文の審査及び最終試験に関する事項
  - (5) 学生の入学、退学、休学、転学、除籍、復籍、留学及び課程の修了に関する事項
  - (6) 学生の訓育指導及び賞罰に関する事項
  - (7) 研究科の教員の選考に関する事項
  - (8) 授業科目及び研究指導の担当者に関する事項
- 2 研究科委員会は、学長及び研究科長（以下、「学長等」）が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 3 第1項第7号及び第8号に基づく教員の人事に関する審議は、研究科長、専攻長及び教授である委員のみで行う。

（研究科委員会と理事会の関連事項）

第49条 研究科委員会の決議中、理事会所管事項に関連あるものについては、理事会の承認を要する。

（研究科委員会に係るその他の事項）

第50条 研究科長は必要と認めるときは、事務職員その他の者を研究科委員会に列席させることができる。この列席者は議決権を持たない。

## 第12章 賞罰

（表彰）

第51条 人物学業ともに優秀で他の学生の模範となる者に対して、学長は研究科委員会の議を経て、これを表彰することがある。

（罰則）

第52条 本大学院の規則もしくは命令に従わず、又は学生の本分に反する行為があった者に対して、学長は研究科委員会の議を経て、これを懲戒することがある。

- 2 前項の懲戒の種類は訓告、停学及び退学とする。
- 3 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。
  - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
  - (2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められた者
  - (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
  - (4) 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反し、本大学院に在学させることが適当でないと認められた者

## 第13章 課外講座

（課外講座）

第53条 本大学院は、課外講座、公開講座又は講習会等を開催することがある。

## 第14章 準用規定

第54条 本大学院に関する事項については、この学則等に定めるもののほか、東洋学園大学学則及び諸規程等の定めを準用する。この場合において、「学部」とあるのは「研究科」、「学部長」とあるのは「研究科長」、「教授会」とあるのは「研究科委員会」とそれぞれ読み替えるものとする。

## 第15章 学則の変更

(学則の変更)

第55条 本学則の変更は、研究科委員会の議を経て理事会が行う。

附則1 この学則は平成20年4月1日から施行する。

(2) 第6条第5項及び第23条第1項但書の規定は、平成21年4月1日の入学者から適用する。

附則2 この学則は平成21年4月1日から改定施行する。

附則3 この学則は平成23年4月1日から改定施行する。

附則4 この学則は平成24年4月1日から改定施行する。

附則5 この学則は平成25年4月1日から改定施行する。

附則6 この学則は平成26年4月1日から改定施行する。

附則7 この学則は平成27年4月1日から改定施行する。

附則8 この学則は平成29年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成29年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

附則9 この学則は平成30年4月1日から改定施行する。

附則10 この学則は平成30年6月1日から改定施行する。

附則11 この学則は平成31年4月1日から改定施行する。

(2) この学則は平成31年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお従前の学則を適用するものとする。

別表 1. 授業科目・単位数

研究科 専攻 課程	区分	授 業 科 目	単位数	必修	選択	必 要 要 件
現代経営研究科 現代経営専攻 修士課程	科基礎	経営学研究	4		4	
	基礎研究科目	マーケティング研究	2	2		基礎研究科目は、10 単位を修得しなければならない。
		アカウンティング研究	2	2		
		ファイナンス研究	2	2		
		人的資源研究	2	2		
		経営学手法研究	2	2		
	基幹研究科目	経営管理研究	2		2	基幹研究科目は、8 単位以上を修得しなければならない。 但し、「特別講義 I」、「特別講義 II」で修得した単位は、当該要件単位数には算入されない。 なお、留学生は、上記 8 単位に加え、「特別講義 I」、「特別講義 II」、計 2 単位を修得しなければならない。
		マーケティング戦略研究	2		2	
		経営戦略研究	2		2	
		人的資源戦略研究	2		2	
		財務会計研究	2		2	
		管理会計研究	2		2	
		ファイナンス戦略研究	2		2	
		不動産運用設計	2		2	
		パーソナルファイナンス	2		2	
		リスクマネジメント	2		2	
		相続・事業継承設計	2		2	
		タックスプランニング	2		2	
		特別講義 I	1		1	
	特別講義 II	1		1		
	関連研究科目	ビジネス経済研究	2		2	関連研究科目は、4 単位以上を修得しなければならない。
		ビジネス法律研究	2		2	
		欧米ビジネス研究	2		2	
		中国ビジネス研究	2		2	
	実践研究科目	ケーススタディ 1 (マーケティング)	2		2	実践研究科目は、4 単位以上を修得しなければならない。
		ケーススタディ 2 (ファイナンス)	2		2	
ケーススタディ 3 (ヒューマン・リソース)		2		2		
究課題 科目研		現代経営特別演習	6	6		課題研究科目は、6 単位を修得しなければならない。

別表 2. 検定料、入学金、授業料、その他

イ、検定料	30,000 円
ロ、入学金	200,000 円
ハ、授業料	700,000 円
ニ、維持費	100,000 円
ホ、施設設備費	100,000 円

学校法人東洋学園の設置する学校を卒業した者、又はその課程を修了した者の学納金は別に定める。

第 6 条第 5 項の規定を適用する者の学納金については別に定める。

所定の修業年限を超えて在学する者の学納金は別に定める。

この別表に規定するもののほか、検定料、入学金、授業料その他の納付金の取扱いに関し、必要な事項は、別に定める。



## V. 履 修 の 手 引

### 1. 単位制と課程の修了要件

#### (1) 単位制と単位計算

単位制とは、本大学院の定める基準に従い授業科目を履修し、それらの試験に合格することにより所定の単位数を修得したときに、修了資格が与えられる制度である。

単位は「1単位の授業を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」(大学院設置基準)とし、授業の方法に応じて教育効果、時間外に必要な学修等を考慮して定められている。

本大学院では東洋学園大学大学院学則第21条(注参照)のとおり規定している。なお、本学では90分の授業をもって2時間の授業とする。

(注①) 東洋学園大学学則第24条第1項の定めを準用して単位計算するものとする。

(注②) 講義及び演習については15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

※15時間の授業で1単位ということは、「45時間の学修で1単位」という基準を満たす為には、他に30時間の「時間外に必要な学修」(自習)が必要となる。

(注③) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

※30時間の授業で1単位ということは、「45時間の学修で1単位」という基準を満たす為には、他に15時間の自習が必要となる。

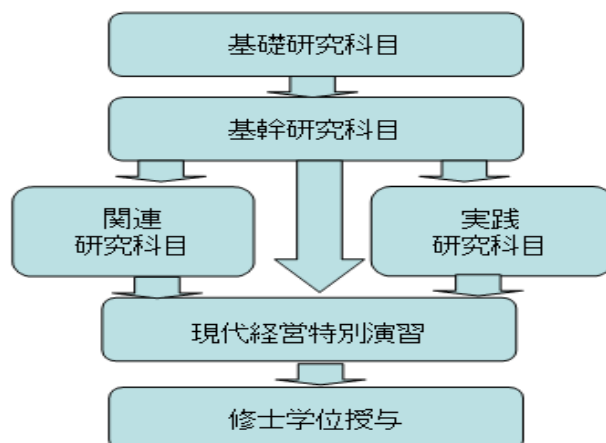
(注④) (注①)(注②)にかかわらず、現代経営特別演習等の授業科目についてはこれらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

※これにより「修士論文」が6単位となっている。

#### (2) 修了の要件(東洋学園大学大学院学則23条から28条参照)

### 2. 授業科目の構成と履修モデル

(1) 授業科目の構成は次のとおりである。



○基礎研究科目

主要な職能分野にわたる基礎的知識を習得する科目

○基幹研究科目

志向する職能分野に関する専門的な知識を一層深化させる科目

○関連研究科目

主要な職能分野の専門性を補完し、自己の研究課題と関連付け、研究内容を発展させる科目

○実践研究科目

経営実践現場を想定してのロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなどによる体験学習や実践事例の分析による総合的な課題学習を行う科目

○現代経営特別演習

文献調査や実地調査を通じて、専門分野における基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、研究成果に関する修士論文を作成させるための個別指導をおこなう科目

※その他、必要に応じ補習科目を開講する。受講学生については本大学院が指定する。

(2) 履修モデル

選択科目については、マネジメント系（モデルA）、アカウンティング系（モデルB）、ファイナンシャル・プランナー系（モデルC）の3つの履修モデルが用意されている（別表参照）。各自の研究分野を考慮し適切なコース、科目を選択するのが望ましい。

モデルCは、特定非営利活動法人（NPO 法人）日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の「CFP®認定教育プログラム」に対応するモデルで、協会が認める「所定の課程」の単位を取得し、また、協会の認める「提案書課題の作成」講座を受講、修了することにより、AFP資格の認定を受ける権利を得ることが出来る。

また、「所定の課程」の単位を取得することで、AFP 資格認定を経ることなく、CFP®資格審査試験の受験資格を得ることが出来る。

なお、詳細については、「CFP®認定教育プログラム」担当教員より個別に指導を受けること。

※AFP（Affiliated Financial Planner）

CFP®（Certified Financial Planner®）

### 3. 授 業 時 間

時 限	時 間
1	9 : 00 ~ 10 : 30
2	10 : 40 ~ 12 : 10
3	13 : 00 ~ 14 : 30
4	14 : 40 ~ 16 : 10
5	16 : 20 ~ 17 : 50

#### 交通機関の不通と気象警報発令時における授業措置について

- 1 自然災害（台風、地震、大雪等）、事故等により鉄道が不通の場合、気象庁から東京23区東部・西部に暴風警報等が発令された場合および大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業措置は、次の通りとする。

##### ① 台風等の自然災害、事故等により鉄道が不通の場合の授業措置

JR の下記路線すべてが全線運行停止の場合

山手、中央、総武、京浜東北、常磐の各路線

(1) 始発迄に運行が開始された場合 授業平常通り

(2) 午前7時迄 // 第2時限より授業

(3) 午前10時迄 // 第3時限より授業

(4) 午前10時迄に運行されない場合 全日休講

##### ② 気象警報が発令された場合の授業措置

東京23区東部・西部に暴風、大雪、暴風雪のいずれかの警報または特別警報が発令された場合

(1) 午前6時迄に気象警報等が解除された場合 授業平常通り

(2) 午前7時迄 // 第2時限より授業

(3) 午前10時迄 // 第3時限より授業

(4) 午前10時の時点で気象警報等が発令中の場合 全日休講

##### ③ 大規模地震対策特別措置法に基づく「警戒宣言」が発令された場合の授業措置

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予測され、大規模地震対策特別措置法に基づき地震防災対策強化地域判定会の招集が確認された場合は、直ちに授業を中止し、以降の授業を全て休講とする。翌日以降の取扱いは、以下の通りとする。

(1) 午前6時迄に解除された場合 授業平常通り

(2) 午前6時までに解除されない場合 全日休講

- 2 オンライン授業は、上記①、②、③の場合であっても原則授業を実施するが、状況により何ら

かの措置が図られる場合は、TG-Navi 等により周知を行う。

- 3 天候悪化等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合は、大学は原則として前日17 時迄に上記授業措置について、大学ホームページへの掲載およびTG-Navi での通知により周知を行う。なお、交通機関の不通と気象警報発令時以外の場合の授業等に関する措置は、TG-Navi等により周知を行うものとする。

## 現代経営研究科現代経営専攻修士課程履修モデル

科目区分	科 目 名	配当	単位	モデルA	モデルB	モデルC	摘 要
基礎科目	経営学研究	1	4	○	○	○	※修了要件に含まない
基礎研究科目	マーケティング研究	1	2	○	○	○	5科目10単位必修
	アカウンティング研究	1	2	○	○	○	
	ファイナンス研究	1	2	○	○	®	
	人的資源研究	1	2	○	○	○	
	経営学手法研究	1	2	○	○	○	
基幹研究科目	経営管理研究	1・2	2	○			4科目8単位以上 選択 ※「特別講義 I」、「特別講義 II」は上記要件単 位に含まない ※留学生は、上記8 単位に加え、「特 別講義I」、「特 別講義II」を修得 しなければならない
	マーケティング戦略研究	1・2	2	○			
	経営戦略研究	1・2	2	○			
	人的資源戦略研究	1・2	2	○			
	財務会計研究	1・2	2		○		
	管理会計研究	1・2	2		○		
	ファイナンス戦略研究	1・2	2		○		
	不動産運用設計	1・2	2			®	
	パーソナルファイナンス	1・2	2			®	
	リスクマネジメント	1・2	2			®	
	相続・事業継承設計	1・2	2			®	
	タックスプランニング	1・2	2		○	®	
	特別講義 I	1	1				
特別講義 II	1	1					
関連研究科目	ビジネス経済研究	1・2	2		○	○	2科目4単位以上 選択
	ビジネス法律研究	1・2	2	○		○	
	欧米ビジネス研究	1・2	2	○			
	中国ビジネス研究	1・2	2		○		
実践研究科目	ケーススタディ1 (マーケティング)	2	2	○		○	2科目4単位以上 選択
	ケーススタディ2 (ファイナンス)	2	2		○	○	
	ケーススタディ3 (ヒューマン・リソース)	2	2	○	○		
課題研究科目	現代経営特別演習	1~2	6	○	○	○	6単位必修
修得単位数				32単位	32単位	34単位	
本院修了要件単位数				32単位			

※本表はあくまで推奨される履修モデルであり、本表通りに履修する必要はない。但し、摘要欄に記載される各事項(要件)を満たす履修を行わなくてはならない。

## 4. 試験と成績

### (1) 定期試験

定期試験は原則として春学期及び秋学期の授業終了後に期間を定めて実施する。

ただし、科目によっては、定期試験期間以外の日に試験を実施する場合や定期試験に代えてレポートを課す場合がある。

定期試験の実施日程、時間割などの詳細は事前に掲示により発表する。

### (2) 追試験

追試験は病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受験できなかった者に対して実施される試験であり、次のように実施される。

①追試験の受験希望者は、「追試験願」を所定の期日までに教務課に提出し、科目担当者の許可を得なければならない。

②「追試験願」には、以下のとおり定期試験を受験できなかった正当な事由を証明する書類(試験を欠席した日付が確認できること)を添付しなければならない。

欠席理由	欠席理由を証明する書類等
本人の傷病 ※1	医師の診断書又はそれに準ずる書類 (法定伝染病に罹患し出席停止となった期間は公欠とする。)
忌 引	会葬礼状又は死亡診断書(写し) (忌引きの取扱いにより公欠とする。)
交通機関の遅延	交通機関の遅延証明書(駅発行のもの)
交通事故	事故証明書(写し)又は医師の診断書
災害(台風、水害、火災、地震等)	罹災証明書(写し)等、災害の状況が把握できる書類
就職活動 ※2	企業、官公庁等発行の証明書(就職活動の場所・日時を明記し、社印等が押印されていること)又はそれに準ずる書類
裁判員候補者として呼出しを受けた場合 または裁判員に選任された場合	裁判所が発行する呼出状(写し)又は証明書
その他やむを得ない理由	試験を受けられなかった正当な事由を証明する書類又はそれに準ずる書類

※1 インフルエンザ等の法定伝染病に罹患し出席停止の診断が医師より行われた場合は、大学所定の「診断・登校許可証明書」を保健室にて受け取り、医師の証明を受けたうえで提出すること。

※2 試験が優先されるので、日程調整のうえ、やむを得ない場合のみ願出することができる。

③定期試験に代わるレポートをやむを得ない理由で期限までに提出できなかった場合も、定期試験欠席と同様に見なし、追試験と同じ手続をとらなければならない。

④追試験を受ける者は所定の受験料を納入すること。但し、試験欠席理由が公欠による場合は、受験料の納入は免除される。

⑤追試験の点数は原則として得点の 80%とし、対象科目の成績評価基準により成績が決定する。但し、試験欠席理由が公欠による場合は、得点を減じず評価が行われる。

⑥追試験の実施日程、時間割など詳しい内容は事前に掲示により発表する。

### (3) 再試験

①再試験は定期試験を受けた結果不合格となったが、出席時数は満たされている 2 年次での履修科目が対象となる。

②「現代経営特別演習」に関しては、再試験は実施されない。

- ③再試験が許可された科目を受験希望する者は、所定の期日までに手続きを行わなければならない。
- ④再試験を受ける者は所定の受験料を納入しなければならない。
- ⑤再試験による成績の評価は、原則としてCないしDとする。
- ⑥実施日程については、追試験と同時に行なう。従って追試験の再試験は実施しない。

(4) 試験実施要領

- ①試験を受けるには、学生証の提示が必要とされる。忘れた場合は、同一試験期間内において原則として2回まで、教務課で仮学生証の交付を受けることができる。
- ②学生証は机上の見やすい位置に提示する。
- ③試験場では筆記用具と特に指定されたもの以外は使用することはできない。
- ④解答用紙を提出する際には、試験監督者の指示に従わなければならない。試験場退出後に再入室することはできない。
- ⑤解答用紙を提出しなかった者はその期のその試験を放棄したものと見なし、その試験を不合格とする。その場合の追試験は認められない。
- ⑥試験を遅刻した場合は、20分以内で、かつ試験監督者の許可を得た場合に限り、受験することができる。それ以外の場合は受験を認めず、欠席と見なされる。
- ⑦欠席(20分を越える遅刻の場合を含む)した場合は、速やかに「追試験願」を教務課に提出すること。
- ⑧試験において、不正行為があったと判定された場合は、その期のその科目は不合格とし、学則等にもとづいて厳重な処分が課される。

(5) 成績の評価と表示

- ①履修した授業科目の成績評価は下記②の成績評価基準に基づき、各授業科目に設定された評価方法により、到達目標への達成度を評価するものとする。なお、各授業科目に設定されている到達目標、評価方法は、シラバスを参照すること。
- ②成績の評価は次のように表示される。

合否	成績評価	評価基準
合格	S	90～100
	A	80～89
	B	70～79
	C	60～69
不合格	D	～59

- ③合格の判定を得た後、最終的にその授業科目の単位を修得する。
- ④成績は成績通知書によって、本人に通知する。

(6) 忌引等による欠席

忌引き及び公的行事による欠席であり、その旨を記載した「欠席届」が教務課に提出されている場合は、授業に関して出席扱いとなる。上記事由による試験の欠席については、追試験の実施等に関して特別に配慮される場合がある。

忌引日数は、死亡日から起算した連続日数とし、休業日と重複してもその日数を加算しない。手続には、会葬礼状または死亡診断書(写)等の提出を要する。公欠となる親族の範囲及び公欠となる期間は下記の通りとする。

父母、配偶者、子	7日以内
兄弟姉妹、祖父母	5日以内
曾祖父母、叔父叔母、甥姪	3日以内

### 課題レポート、論文提出にかかわる諸注意

課題レポート、論文の作成・提出に当たっては以下の点に注意を要する。

1. 他の学生のレポート・論文等の内容、表現と同一あるいは酷似する部分を含むレポート・論文等が提出され、不正行為と判断された場合、同一あるいは酷似するレポート、論文を提出した全ての者は不正行為を犯したものと見なされ、当該科目は不合格となるとともに厳重な処分が課される。
2. インターネット上に掲載されている他人のレポート・論文等を複写し、引用元の明示なく、自らのレポート・論文の全てあるいは一部として提出した場合、著作権、知的財産権侵害の不法行為として、当該科目が不合格となるとともに厳重な処分が課される。
3. 修士論文の提出後に、上記「1」「2」に該当する不正行為、不法行為の存在が発覚した場合には、研究科委員会による調査、審議に基づき、当該行為を行った者及び責を負うべき関係者に対し、厳重な処分が課される。



## 5. 修士論文の指導と審査

### (1) 修士論文指導（研究指導）教員について

- ①修士論文指導（研究指導）は、「現代経営特別演習」の教員が主指導教員となり、副指導教員とともに担当する。
- ②修士論文指導（研究指導）を担当する教員は、論文の内容について指導するだけでなく、形式に関する規定、提出方法に関する規定を守らせるように学生に指導する。

### (2) 修士論文に関するスケジュール

スケジュールの概要については下記およびシラバスを参照のこと。

なお、修士論文指導（研究指導）を担当する教員によって各指導時期の調整がなされる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。

1 年 次		
春 学 期	夏 学 期	秋 学 期
<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究計画書提出</li> <li>○個別面接指導</li> <li>○指導教員確定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究計画書確認</li> <li>○個別面接指導</li>   <li>○文献調査及び実地調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究計画書確認</li> <li>○個別面接指導</li> <li>○論文中間報告会</li> <li>○論文作成</li> </ul>
2 年 次		
春 学 期	夏 学 期	秋 学 期
<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別面接指導</li> <li>○論文計画書提出</li> <li>○論文作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○論文計画書確認</li> <li>○個別面接指導</li>   <li>○調査研究のまとめ</li> <li>○論文作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別面接指導</li>   <li>○論文研究発表会</li> <li>○論文提出</li> <li>○論文審査面接</li> </ul>

### (3) 修士論文の審査について

規定に基づいた形式、提出方法で期限内に提出された修士論文は、主査1名と副査2名の合議により評価される。

主査は原則として研究指導を担当する主指導教員が、副査1名は副指導教員が担当する。

残る副査1名は、主指導教員、副指導教員を除く教員から無作為に決定される。

#### (4) 修士論文審査基準

修士論文の審査基準は以下の通りとする。

- ①テーマの設定は適切か。明確な問題意識のもと、具体的な研究の目的が示されているか。先行研究のレビューは十分か。理論仮説の導出は適切か。
- ②分析方法は適切か。統計処理、データ解析は妥当か。分析結果は明確で、意味があるか。
- ③考察や理論的解釈は妥当か。オリジナリティーはあるか。従来研究成果にとどまらず、新しい成果や解釈が得られているか。
- ④論旨の展開は明確か。引用のルールは守られているか。故意のデータや分析結果の改竄、ないし剽窃はないか。誤字・脱字がなく、文章表現は正確か。注の付け方、図表の挿入の仕方、参考文献リストの作成は整っているか。

#### (5) 2023年度修士論文提出方法・日程について

##### 1. 提出資格

修士論文の提出資格は以下の資格要件を満たしている必要がある。

- (1) 所定単位の修得者、あるいは修得見込みの者であること。
- (2) 「修士論文計画書」が提出されていること。
- (3) 修士論文研究発表を行った者であること。

##### 2. 修士論文研究計画書

- (1) 所定の「修士論文計画書」に必要事項を記載し、6月30日(金)までに教務課へ提出すること。
- (2) 「修士論文計画書」は主指導教員の指導のもとで作成し、承認印を受けた上で提出しなければならない。
- (3) 修士論文計画書提出以降における論文主題の変更は、8月25日(金)までに申請し、研究科委員会の承認を経た場合にのみ行うことができる。
- (4) 修士論文研究発表会以降における論文主題への副題の追加及び副題の変更は、11月17日(金)までに申請し、研究科委員会の承認を経た場合にのみ行うことができる。

##### 3. 修士論文研究発表会

- (1) 研究発表会は上記「修士論文計画書」を提出した者が行うことができる。
- (2) 研究発表会は10月26日(木)に実施する。
- (3) 研究発表会に参加する者は、発表内容について事前に主指導教員の十分な指導を受けた上で発表を行うこと。

(4) 修士論文発表会の実施に関する詳細は別途定める「修士論文研究発表会実施要領」に基づく。

#### 4. 修士論文の提出条件

(1) 修士論文を提出しようとする者は、所定の期限の内に修士論文の一次提出を行わなければならない。特段の事情があると認められた場合を除き、期限内に一次提出のない者は修士論文の最終提出を行うことができない。

(2) 修士論文の最終提出に際しては、事前に主指導教員及び副指導教員の許可を得なければならない。

#### 5. 修士論文提出期限等

(1) 提出期限： 一次提出 12月11日(月)  
最終提出 1月11日(木) (詳細は別途連絡する)

(2) 提出受付時間：午後5時まで

(3) 提出場所：教務課

(4) 提出期限、提出時間を過ぎた場合は、原則として受理しない。

(5) 郵送による提出は認めない。代理人による提出は正式な委任状の提出を必要とする。

(6) 最終提出後の訂正及び修正は原則として認められない。

#### 6. 修士論文作成及び提出方法について

(1) 日本語または英語でA4横書きとする。日本語の場合は、原則として、横40字、縦30行、片面打ち、フォントの大きさは11ポイントの明朝体による。手書きの場合は、A4横書きの原稿用紙を使用すること。英文の場合はダブル・スペースで、ワープロ使用のみとする。

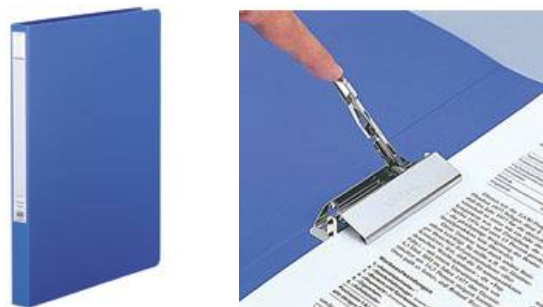
(2) 字数は、原則として20,000字以上とする。

(3) 修士論文には必ず「修士論文要旨」を添付すること。修士論文要旨はA4横書き、700字程度とする。

(4) 修士論文は、修士論文提出許可書とともに、正1部、副2部を提出する。

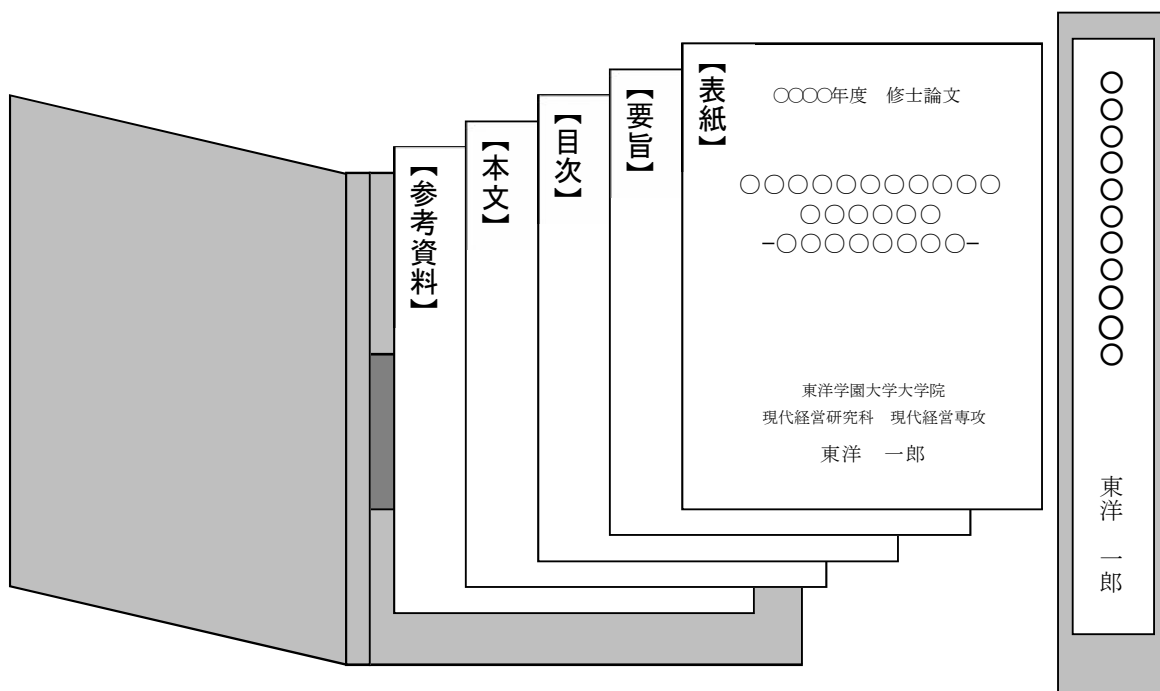
(5) 修士論文は「表紙」「修士論文要旨」を添付した上で、市販のバインダー（レバーファイル）に綴じて提出すること。綴じ方については以下を参照のこと。

〔市販バインダー（レバーファイル）例〕



〔綴じ方  
紙〕

〔背表



※1 正本・副本ともに上図のとおり綴じて提出すること。

※2 背表紙は手書きで論題と氏名を記入のこと。

(6) 論文の目次を作成し（様式自由）、本文の前に綴じること。なお、本文には必ずページ番号を付すこと。

(7) その他必要な参考資料等は、本文の後に綴じること。

(8) A4 横書きの表は90度左に回転させ綴じること。なお、本文中のA4 横書きの表は90度左に回転させたいページ番号を下に付すこと。

#### 7. 修士論文審査面接

- (1) 修士論文審査面接は2月初旬に行う。(詳細は別途連絡する)
- (2) 審査面接時には、論文、その他必要な資料を持参すること。

#### 8. 修士論文の審査員

- (1) 規定に基づいた形式、提出方法で期限内に提出された修士論文は、主査1名と副査2名の合議により評価される。  
主査は原則として研究指導を担当する主指導教員が、副査1名は副指導教員が担当する。残る副査1名は、主指導教員、副指導教員を除く教員から無作為に決定される。
- (2) 1名の副査は9月に開催される研究科委員会で決定する。

## VI. そ の 他

### 1. 研究活動上の不正行為防止について

本学を構成する全ての者は、研究活動上の不正行為を防止し、研究活動上の不正行為が行われ、またはその恐れがある場合、厳正かつ適正な対応を図らねばなりません。

本学を構成する全ての者とは役員、教職員及び学生等をいい、学生等とは本学に在学及び在籍して修学または研究に従事する全ての者をいいます。つまり、学部学生はもとより、本学大学院で研究活動を行う院生諸君も当然ながら含まれます。

研究活動上の不正行為とは、研究の立案、計画、実施、成果の取りまとめの各過程（修学上行われる論文作成を含む）において行われる以下の行為をいいます。

#### 【研究活動上の不正行為】

- (1) 捏造 存在しないデータ、研究結果等を作成すること。
- (2) 改ざん 研究資料、機器、過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られたデータ、研究成果等を真正でないものに加工すること。
- (3) 盗用 他の研究に携わる者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究に携わる者の了解若しくは適切な表示なく流用すること。
- (4) 研究費の不適切な使用  
物品購入に係わる架空請求、不当な旅費の請求、実態と異なる謝金の請求、その他公募型の研究資金を配分する機関の定めなどに違反して研究費を使用すること。

万が一、上記のような不正行為がなされている、あるいは、なされる恐れがあると認識した場合には、通報・相談窓口である法人本部企画部に通報・相談して下さい。

#### 【通報・相談窓口連絡先】

法人本部企画部 本郷校舎 1号館 8階  
電話 : 03 (3811) 1731  
mail : kikaku-announce@tyg.jp

## 2. 1号館7階（大学院生フロア）の使用について

本郷校舎1号館7階には、大学院学生が授業で使用するゼミ教室の他に、大学院学生の専用施設として次のものが設置されています。

- (1) 院生研究室            研究活動を行うためのデスク、PC、プリンター等を設置しています。
- (2) 院生ロッカー        大学院学生の個人所有物を保管するため貸与するものです。

利用については、以下の注意事項を遵守して下さい。

### 【注意事項】

- ①院生研究室は共有スペースなので、個人の所有物を放置しないようにして下さい。
- ②院生研究室内での飲食は禁じます。
- ③校舎内は、喫煙所以外での喫煙は厳禁となっています。
- ④院生研究室内での私語は他の院生の迷惑にならぬよう注意して下さい。
- ⑤PC、プリンター、コピー機等の備品取扱には十分注意のこと。マシントラブル等については、法人本部（1号館8階）まで連絡のこと。
- ⑥コピー機は、7階院生談話室内のコピー機をご利用ください。
- ⑦院生ロッカーには貴重品は保管せず、常時施錠するよう注意して下さい。
- ⑧院生ロッカーは貸与するものなので、鍵の管理には十分注意して下さい。万が一、紛失等の場合には、総務課（1号館1階）まで申し出て下さい。
- ⑨教員研究室、講師控室、教材作成室、コピーコーナー（教員用）、給湯室等の教員専用スペースには教員の承諾なく入室することができません。
- ⑩喫煙所、トイレ等の教員との共用スペースの使用にあたっては、マナーに気をつけ使用して下さい。

# 2023 年度 シラバス

現代経営研究科現代経営専攻（修士課程）



## 学 事 日 程

### 【春学期】 4月1日(土)～9月15日(金)

入学式	4月2日(日)
授業開始	4月10日(月)
創立記念日	5月1日(月)
全学休業日	5月2日(火)
授業終了	7月25日(火)
補講	7月8日、15日(土)
定期試験	7月26日(水)～7月29日(土)
夏季休業	8月1日(火)～9月11日(月)
事務閉鎖	8月11日(金)～8月18日(金)
追・再試験	8月25日(金)

※5月3日(水)、5月4日(木)、5月5日(金)、7月17日(月)の祝日は通常授業日とする。

### 【秋学期】 9月16日(土)～2024年3月31日(日)

授業開始	9月15日(金)
年内授業最終日	12月18日(月)
補講	12月19日(火)～12月20日(水)
冬季休業	12月21日(木)～1月4日(木)
事務閉鎖	12月26日(月)～1月4日(木)
授業再開	1月5日(金)
授業終了	1月22日(月)
定期試験	1月23日(火)～1月26日(木)
春季休業	2月1日(木)～3月31日(日)
追・再試験	2月22日(水)
卒業式	3月20日(水)

※9月18日(月)、10月9日(月)、11月3日(金)、11月23日(木)の祝日は通常授業日とする。

※10月13日(金)、10月16日(月)、1月12日(金)は全学休講日とする。

区分	基礎研究科目	科目名	マーケティング研究	担当者	隈本 純
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	必修			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての基礎的知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-1 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>消費者の行動特性や心理状況を理解することなしに現代マーケティング戦略の成功は不可能であるといわれている。生産者志向な管理マーケティングの諸相は「モノあまり時代」の到来とともに機能低下しはじめ、かわりに顧客との関係性構築のためのマーケティング施策が注目されるようになった。デジタル革命の到来と相まって、近年の新たなマーケティング環境の変化と市場を理解するにはより高度なリタラシーと実践力が求められている。</p> <p>そこで本科目ではマーケティングの基礎を理解するにとどまらず、ケース分析を通じてより実践的に課題をとらえることにより、確かなエビデンスに基づくソリューションの提案ができるようになることを目的とする。本科目は4部で構成される。第1部は管理マーケティングの基礎概念を学び、第2部はそれらの応用をケースや演習で復習する。そして第3部で新たなマーケティングの諸相を理解し、第4部で実践的な演習・ケースにより総合的な理解をはかる。ケース分析や演習は講座全体の3～4割程度で、個人あるいは小グループの発表・討議形式ですすめられる。</p> <p>受講生は本講座を通じて実際のビジネスで市場(消費者)動向を十分に把握した具体的なマーケティング計画策定が実践できるようになってほしい。</p> <p>なお、第1回目だけはオンライン形式(ライブ)で実施される。また、本科目はSDGs目標の「つくる責任、つかう責任」と関連している。</p>				
到達目標	<p>受講生が基本的なマーケティング概念を体系的に理解しその機会を分析し計画策定できる力を養うこと、そしてケース分析や演習を通じてマーケティング管理能力を開発することを学習目標とする。</p>				
評価の方法基準	<p>クラス参加・貢献(30%)、演習・ケース分析課題(30%)、期末課題プレゼンテーションとレポート(40%)の3項目により総合的に評価する。</p> <p>以上を次の評価基準に則り総合的に評価する。</p> <p>S:90-100 A:80-89 B:70-79 C:60-69 D:60未満</p>				
参考文献等	<p>教科書； 隈本純・村中均(2023)「すっきりわかる マーケティング戦略」文真堂 ISBN 978-4-8309-5202-9</p> <p>参考書； 慶應義塾大学ビジネス・スクール編 嶋口充輝他著(2004)「マーケティング戦略」有斐閣 ISBN 978-4641053823</p> <p>その他の参考書については、クラスの講義内容に合わせて随時紹介していく。</p>				
実務経験の関連概要と					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	ガイダンスと導入授業	授業の概要、学習目標、成績評価方法、受講のルールなどについてガイダンスする。導入授業としてマーケティングとは何かについて解説する。この1回目だけはオンライン形式(ライブ)で実施される。	事前学習	2	マーケティングという言葉の意味を事前に調べ、シラバス記載の授業の構成や内容に関して用語等を調査して意味を理解しておく。
			事後学習	2	事後は次回の授業に向けて配布資料等見返し、本科目の講義内容を理解する。
2	市場細分化	マーケティング概念と活動、マーケティング環境の変化、市場環境分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
3	製品戦略	製品属性、製品ライフサイクル。ブランディングとブランド拡張	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
4	価格戦略	価格設定アプローチ、価格調整政策。	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
5	流通戦略	流通機能、流通形態、チャネル設計と管理。	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
6	コミュニケーション戦略	広告、PR、販売促進活動。	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
7	ケース分析 A	市場環境分析とポジショニング。発表、討議	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
8	ケース分析 B	チャネル開拓とブランディング。発表、討議	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
9	ウェブとエコロジー	インターネットマーケティングの諸相とエコマーケティングのあり方。期末レポート課題提示。	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
10	サービスマーケティング	サービスの特性、品質管理、4P 的視座から見たサービス。	事前学習	2	関連する参考書の該当章を読み授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
11	外的環境要因と消費	消費の状況要因、社会集団の影響(準拠集団、メディア、ロコミ他)と販売戦略	事前学習	2	関連する参考書の該当章を読み授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
12	ケース分析 C	消費者理解のためのマーケティングの実践;PART 1。発表、討議	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
13	ケース分析 D	消費者理解のためのマーケティングの実践;PART 2。発表、討議	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。教科書および関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。
14	期末課題プレゼンテーション	期末課題に関する発表	事前学習	2	効果的なプレゼンテーション資料を作成するための事前学習を行うこと。
			事後学習	2	受講後は講師に指摘された点や改善点に関する内容を復習すること。関連する参考書を読み理解を深めること。
15	総括	総括。期末レポートの提出	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
			事後学習	2	受講後はこれまでの配布資料や教科書を復習すること。関連する参考書の該当章を読み理解を深めること。

区分	基礎研究科目	科目名	アカウンティング研究	担当者	小川 華代
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	必修			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての基礎的知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-1 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。			
講義の目的内容	<p><b>【講義の目的】</b>            会計は、企業の経営を円滑に行うための管理・統制機能を有している。外部に公表される財務諸表は、企業の経営状態を判断する重要な情報の1つである。本講義では、財務諸表はどのように作成され、企業内部でどのように活用されているのか、また外部から企業を見るときに、財務諸表からどのようなことを読み取ることができるのかを理解することを目的とする。会計に関する基礎的な知識を修得し、そのうえで財務諸表から企業の状態や経営戦略について院生間でディスカッションを交え、考察する。</p> <p><b>【講義の内容】</b>            (1) 企業会計の基礎            (2) 財務諸表            (3) 連結会計            (4) 財務諸表分析</p>				
到達目標	企業会計の役割について理解し、会計情報を読み解く力を身につけること目標とする。				
評価の方法基準	<p><b>【評価方法】</b>            授業への貢献度および、レポートを総合的に評価する</p> <p><b>【評価基準】</b>            レポート40%、授業への貢献60%とする。            評価は A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:60未満とする。</p>				
参考文献等	<p><b>【テキスト】</b>            村田直樹・相川奈美・野口翔平編著『企業会計の基礎理論(第3版)』, 同文館出版, 2021年。</p> <p><b>【参考文献】</b>            村田直樹編著『会計学ハンドブック』創成社, 2021年。</p> <p><b>【参考資料】</b>            必要に応じて適宜、プリントを配布する。</p>				
実務経験の関連概要と					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	会計学の意義	会計学の意義と概要について学ぶ	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
2	企業会計原則	企業会計原則と一般原則について会社法と金融商品取引法と併せて学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
3	貸借対照表の構造	貸借対象の役割と構造について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
4	損益計算書の構造	損益計算書の役割と構造について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
5	企業会計システム	複式簿記と決算について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
6	キャッシュフロー計算書の構造	貨幣性資産とキャッシュフロー計算書の構造について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
7	棚卸資産と売上原価	棚卸資産と売上原価の計算手法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
8	固定資産と減価償却	固定資産の分類と減価償却の方法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
9	リース会計	リース取引の分類と会計処理について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
10	無形固定資産	無形固定資産の種類と会計処理について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
11	減損会計	減損会計について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
12	負債の会計	負債の定義と分類、会計処理について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
13	連結会計	企業グループの構成と連結会計の基本的な内容について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
14	財務諸表分析	財務諸表分析の方法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
15	事例研究	実際の企業の財務諸表を使用して分析を行い、企業評価をする。	事前学習	2	財務諸表分析を行いたい企業について調べておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。

区分	基礎研究科目	科目名	ファイナンス研究	担当者	富田 洋介
	開講期間	秋学期			
	選択・必修の別	必修			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての基礎的知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-1 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>講義内容 本講義では資産運用やコーポレート・ファイナンスの分野に焦点を当て、基本理論の習得を目指す。ファイナンスは運用会社や企業の財務部に就職した際に、根幹を成す学問である。習得する内容は高度ではあるが、初学者であっても理解しやすい丁寧な講義を心がける。ファイナンスの基礎には経済学的な知識が必要となるため、経済学の復習をお願いしたい。</p> <p>講義の特色 基本的にテキストを用いて講義を進める。テキストの精読は学生の課題とし、講義では疑問点や重要点について解説する。</p> <p>履修上の注意 課題については丁寧にこなしてほしい。やむを得ず欠席する場合には必ず担当教員へ連絡すること。</p>				
到達目標	<p>1)ファイナンスの基礎について習得し、その根本理論を習得すること。 2)ビジネスにおけるファイナンスについてその基礎部分は理解をすること。 3)ファイナンスにかかわる簡単な数理計算ができるようになること。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。</p>				
評価の方法基準	<p>評価方法 講義への積極性 50% (課題および平常点) + 期末レポート 50% 履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。</p> <p>評価基準 下記の基準により評価する 【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】</p>				
参考文献等	<p>テキスト 『ビジネスマンのためのファイナンス入門』、山澤光太郎、2004年、東洋経済新報社</p>				
実務経験の関連性	<p>証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。</p>				

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	イントロダクションとファイナンスの世界について	講義の進め方、ファイナンスの概略について解説する。	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。 また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	キャッシュフローについて	企業活動とキャッシュフローについて解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	投資に関する理論	割引現在価値などについて学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	証券投資に関する理論と市場の効率性 I	ポートフォリオ理論について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	証券投資に関する理論と市場の効率性 II	資本資産評価モデル (CAPM) について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	企業価値評価	加重平均資本コストについて解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	企業の最適資本構成と配当政策 I	MM 理論を中心に学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	企業の最適資本構成と配当政策 II	ベッキングオーダー理論と配当政策を中心に学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
9	資本市場に関する理論と実務 I	株価の決定に関する理論を中心に解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	資本市場に関する理論と実務 II	債券価格の決定理論や金利の期間構造について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	デリバティブの理論と実際 I	先物取引とスワップ取引を中心に解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	デリバティブの理論と実際 II	オプションについて学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	コーポレート・ガバナンス I	エージェンシー理論について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	ジャンク債について	投資不適格債の需要について議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	最近のトピックス	天候デリバティブ、自己資本比率規制、行動ファイナンスについて触れる。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区分	基礎研究科目	科目名	人的資源研究	担当者	横山 和子
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	必修			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての基礎的知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-1 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>人的資源管理の基本的な考え方やその仕組みについて学ぶ。企業等に雇用されて働く人間を人的資源と呼ぶことは 2000 年代以降わが国においても定着してきたが、その特性や制約を踏まえた獲得や活用の考え方や方法が求められる。本講義においては、経営資源としての人的資源の特殊性を理解し、活用の仕組みについて学ぶ。また、産業構造や就業意識も変化するなかで、多様な人材をマネジメントするための企業の取り組みを知り、課題などを検討する。</p> <p>授業の進め方は、講義に加え、事前学習「演習問題」を中心に課題討議を行う。また、企業における実践的な事例を随時紹介する予定であり、そのバックグラウンドや意義を探求する。</p> <p>取り上げるテーマは次のとおりである。</p> <p>(1)人的資源管理の位置づけ(基礎理論、人間モデル、組織設計)</p> <p>(2)人事制度</p> <p>(3)評価と報酬</p> <p>(4)人材育成</p> <p>(5)労使関係</p> <p>(6)人的資源の多様化にかかる現代的トピックス</p> <p>本科目は対面形式で行う。</p>				
到達目標	<p>(1)人的資源管理論の基礎理論を理解できるようになる</p> <p>(2)人的資源の特殊性を理解できるようになる</p> <p>(3)人的資源の採用から退職までのフローを理解できるようになる</p> <p>(4)人的資源に対する評価の考え方を理解できるようになる</p> <p>(5)多様な人的資源の活用の意義と課題を理解し、自身の考えを言語化・文章化することができるようになる</p>				
評価の方法基準	<p>(1)評価の方法 ディスカッションなどへの授業参加 20%、小課題 30%、期末レポート 50%により評価する。</p> <p>(2)評価基準 S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60 未満</p>				
参考文献等	<p>(1)テキスト 上林憲雄・厨子直之・森田雅也『経験から学ぶ 人的資源管理[新版]』(有斐閣、2019年、2,800円+税)</p>				
実務経験の関連概要と	<p>国際公務員としての実務経験に基づき、多様な職場での仕事の進め方を展開する。国際公務員としての実務経験に基づき、多様な職場での仕事の進め方を展開する。</p>				



	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	人的資源管理とは: 人的資源管理の役割を考える	授業の進め方、事前・事後学習について解説する。人的資源管理の基本と全体像について考える。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人的資源、マネジメント、人的資源管理、人事労務管理、戦略的人的資源管理
			事後学習	2	テキスト 24 ページ、演習 2 日本企業のウェブサイトにアクセスし、人のマネジメントを扱う部署の呼称で「人事部」以外にどういった呼称があるか調べ、レポートとして提出すること。
2	人間モデルと組織行動: 組織は人をどのようにつくるのか	人的資源管理の対象である人間の捉え方を理解し、それぞれの人間観に基づく管理の仕組みについて考える。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人間モデル、経済人モデル、科学的管理法、社会人モデル、ホーソン実験、自己実現モデル、動機づけ
			事後学習	2	テキスト 50 ページ、演習 1 経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデルのそれぞれにおいて、「賃金」という要素がどのように位置づけられているか整理し、レポートとして提出すること。
3	組織設計: 人の働く組織をどのようにつくるのか	人的資源管理を有効なものとするための組織的な仕組みや規則などを概観し、仕事の進め方とマネジメントのあり方について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 組織設計、組織構造、分業、調整、権限、管理の幅、職務設計
			事後学習	2	テキスト 72 ページ、演習 2 あなたの所属しているサークル活動、またはアルバイトの職場で、どのような役割分担(分業)があるか調べ、それぞれの役割分担が組織全体でどのように調整されているか、相互のコミュニケーション、権限関係、公式化の3点に着目しレポートとして提出すること。
4	採用・配置: 組織は人をどのように雇い入れるのか	新卒者・転職者の採用や配置の問題を取り上げ、人と職務のマッチングについて学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人材フロー、コンピテンシー面接、インターンシップ、出向と転籍、タレント・マネジメント、職種別採用、社内公募制
			事後学習	2	テキスト 99 ページ、演習 2 アルバイト先や勤務先の採用や移動の方法を調べ、組織や個人にとってどういったメリットやデメリットがあるか調べ、レポートとして提出すること。
5	キャリア開発・人材育成: 組織は人をどのように育てるのか	企業内人材育成を体系的に理解する。また、コーチングやメンタリングなどの手法について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 OJT、Off-JT、自己啓発、自律型キャリア、サクセッション・プラン、コーチング
			事後学習	2	テキスト 124 ページ、演習 2 アルバイト先や勤務先の人材育成の仕組みを調べ、短期的な業績と長期的な業績にそれぞれがどのように貢献しているかを分析し、レポートとして提出すること。
6	評価・考課: 組織は仕事の結果をどのように評価するのか	評価者と被評価者の両面から評価の問題を取り上げる。評価の基準を知り、被評価者の納得性を高めるための取り組みについて学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 評価基準、目標管理、評価エラー、手続的公正、多面評価、パフォーマンス・マネジメント
			事後学習	2	テキスト 151 ページ、演習 1 人事評価の基準の種類と特徴を整理し、最近の日本企業で人事評価の基準がどのように変化しているかについて、レポートとして提出すること。
7	昇進・昇格: 組織は人をどのように処遇するのか	職能資格制度をベースとした人事制度について学ぶ。また、役割等級制度など比較的新しい制度への理解を深める。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 職能資格制度、資格、昇格、昇進、重層型昇進構造、職務等級制度、役割等級制度、ファスト・トラック
			事後学習	2	テキスト 177 ページ、演習 1 年功型労務管理が行われていた頃の昇進の在り方について、強味と弱みを整理し、レポートとして提出すること。
8	賃金・福利厚生: 組織は人にとってどのような報酬を与えるのか	賃金体系を理解し、近年における成果の捉え方とその問題点について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 報酬、賃金形態、賃金体系、役割級、カフェテリア・プラン、グローバルで統一化した仕事基準賃金
			事後学習	2	テキスト 205 ページ、演習 2 アルバイト先や勤務先の賃金体系を調べ、どのようなメリットとデメリットがあるか分析し、レポートとして提出すること。
9	安全・衛生: 組織は人の安全と健康をどのように守っているのか	OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)の構築に向けた視点とメンタルヘルスの取り組みについて学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 就業条件管理、リスクマネジメント、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、メンタルヘルス、ハラスメント
			事後学習	2	テキスト 228 ページ、演習 2 「健康経営銘柄」選定企業( <a href="http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcaare/kenko_meigara.html">http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcaare/kenko_meigara.html</a> )の中から、自分が関心のある企業を選び、その取り組みをまとめ、レポートとして提出すること。
10	労使関係: 組織は労働組合とどのように関わるのか	集团的労使関係と個別的労使関係の現状と課題について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 労使関係と労資関係、労働三権、企業別組合、労資協議制、労資関係の個別化
			事後学習	2	テキスト 250 ページ、演習 1 日本の労働組合の特徴と直面している課題について論じ、レポートとして提出すること。
11	退職: 組織は辞めていく人どのように関わるのか	定年制と雇用調整の現状と課題について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 定年制、解雇、早期退職、雇用調整、リテンション・マネジメント
			事後学習	2	テキスト 275 ページ、演習 1 定年制の機能とその現状を調べ、レポートとして提出すること。
12	女性労働・高齢者雇用: 多様化する働く人々を組織はどう管理するか	企業組織における人材の多様性を活かすための取り組みとその課題について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 女性労働、男女雇用機会均等法、M字型労働曲線、ポジティブ・アクション、高齢社会、高齢者雇用、継続雇用制度
			事後学習	2	テキスト 306 ページ、演習 1 日本企業における女性および高齢者のマネジメントの方向性について調べ、レポートとして提出すること。
13	非正規雇用: 多様化する雇用形態を組織は同管理するか	雇用形態の多様化の現状を理解し、企業活動における活用とその課題について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 雇用形態、均等処遇、人材ポートフォリオ、限定正社員
			事後学習	2	テキスト 331 ページ、演習 1 無限定正社員、限定正社員、非正社員の違いを説明し、非正社員の種類と特徴を整理し、レポートとして提出すること。
14	裁量労働・在宅勤務: 多様化する労働時間と場所を組織はどう管理するか	人的資源管理における時間と場所の概念を理解し、自律的な働き方の可能性と課題について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 法定労働時間、所定労働時間、フレックス・タイム制、裁量労働制、ICT、在宅勤務
			事後学習	2	テキスト 358 ページ、演習 3 労働者が自分で労働時間や働く場所を決められることは企業や個人にとって良いことでしょうか、プラス面とマイナス面を考察し、レポートにまとめ提出すること。
15	レポート発表	レポート課題について発表する	事前学習	5	発表レポート、プレゼンテーション準備。
			事後学習	2	他の受講生の発表、自己の発表の振り返りを行う。

区分	基礎研究科目	科目名	経営学手法研究	担当者	富田 洋介
	開講期間	秋学期			
	選択・必修の別	必修			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-1 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>経営学の研究では、主として2つの研究手法が用いられている。1つが定性的な事例研究(定性研究)であり、もう1つが統計的な手法を用いた仮説検証型の研究(定量研究)である。無論、どちらかが一方的に優れた研究手法というわけではなく、研究の目的や対象によって使い分けられるのが理想的である。しかし他方で、統計を用いた研究手法は、文系の大学院生には「やや敷居が高い」というのが現実である。そこで本講義では、できるだけ難解な数式を避けながらも、統計分析に必要な因果推論やソフトウェアの操作方法、分析結果の解釈などを、ソフトウェアの操作を交えつつ、演習形式で学ぶことで、統計分析の基本的な考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>受講にあたっては、Microsoft社のEXCELをある程度不自由なく操作できる程度のコンピュータースキルを有していることが望ましい。</p>				
到達目標	<p>1) 定性研究、定量研究に共通して求められる因果推論の概念を理解し実践できるようになる  2) 定量研究を構成する分析手法とそれを実現するツールを、自らの研究目的に応じて使いこなせるようになる  3) 既存文献の分析方法、分析結果に対して批判的な検討ができるようになる</p> <p>上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。</p>				
評価の方法基準	<p>授業への貢献(授業への参加態度、質問、議論への参加) [40%]、演習課題(課題提出など) [60%]  S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60未満</p>				
参考文献等	<p>テキスト:大村 平『今日から使える統計解析——理論の基礎と実用の勘どころ』Blue Backs(講談社)  テキストを使用して講義を進めるため、教科書は入手すること。  参考書:山本 拓・竹内 明香『入門計量経済学——Excelによる実証分析へのガイド』新世社</p>				
実務経験の関連性要と	<p>証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。</p>				

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	原因を明らかにするための説明の枠組みとは何か	原因を明らかにするための説明の枠組みとは、その他 講義スケジュール、成績評価についての説明など	事前学習	2	予めテキストを「さーと」でよいので読み込む。
			事後学習	2	授業内容の復習を行う。
2	記述統計量について	社会科学における統計の基礎について解説する。	事前学習	2	テキストをよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	2	授業で取り扱った箇所を復習し、理解度を高める。
3	分布について	分布の形状やその形状を表現するために使用する数式を理解する。	事前学習	2	テキストをよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	2	授業で取り扱った箇所を復習し、理解度を高める。
4	区間推定と検定	t分布と自由度に関して学習する。	事前学習	2	テキストをよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	2	授業で取り扱った箇所を復習し、理解度を高める。
5	確率とポアソン分布	さまざまな確立について分析する手法を紹介する。	事前学習	1	テキストをよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	3	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
6	相関係数とその分析	相関係数について解説した後、教員が配布するサンプルデータを用いた演習を行う	事前学習	1	テキストをよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	3	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
7	分散分析について	分散分析の概要、実施手順について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	事前学習	1	テキストをよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	3	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
8	回帰分析、重回帰分析について	回帰分析、重回帰分析の概要、注意事項について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う。また古典的回帰分析の成立条件を学習する	事前学習	1	事前配布の資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	3	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
9	ダミー変数および交互作用を用いた重回帰分析	ダミー変数および交互作用とは何か、および交互作用を用いた検証を行う際の注意点について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	事前学習	1	テキストをよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	3	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
10	非線形回帰分析について	回帰分析における非線形の関連性について概要を説明する。注意事項について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	事前学習	1	テキストをよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	3	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
11	主成分分析/因子分析について	主成分分析/因子分析の概要、注意事項について説明した後、教員が配布するサンプルデータを用いて演習を行う	事前学習	1	配布する追加資料をよく読み込み分からない点や疑問点などを明確にしておく。
			事後学習	3	授業で取り扱った操作の復習を兼ねて指定された課題に取り組む。
12	定量分析を用いた論文の読み解き方①(重回帰分析:クロスセクション)	著名な学術雑誌に掲載された論文のうち、定量分析(回帰分析)が用いられている論文を1~2編取り上げ、分析結果を読み解く演習を行う	事前学習	3	事前に配布する論文を予め指定するポイントを踏まえながら熟読する。
			事後学習	1	授業で取り扱った内容を復習する。
13	定量分析を用いた論文の読み解き方②(重回帰分析:タイムシリーズ)	時系列回帰分析が用いられている論文を1~2編取り上げ、分析結果を読み解く演習を行う	事前学習	2	事前に配布する論文を予め指定するポイントを踏まえながら熟読する。
			事後学習	2	授業で指定された課題に取り組む。
14	サンプルバイアスについて	サンプルバイアスの検討、分析の限界などを学ぶ	事前学習	2	第12回、第13回で読み込んだ論文について再度サンプルバイアスの視点から検討してみる。
			事後学習	2	授業で取り扱った内容を復習する。
15	限界までExcelを使用する方法について	汎用性の高いソフトであるExcelの使用方法について、論文に掲載できる水準のグラフ作成技術を学ぶ。また、ExcelやAccessでデータを整理する方法などを紹介する	事前学習	2	前回に出題されたデータを用いて「美しい」グラフを作成する。
			事後学習	2	講義の総復習を行う。

区分	基幹研究科目	科目名	経営管理研究	担当者	赤尾 充哉
	開講期間	秋学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	経営管理を研究するための基礎となる企業理論を学ぶ。				
到達目標	企業理論を理解し、現実の経営管理の問題を理論的に考察できるようになる。				
評価の方法基準	授業への参加度 50%、発表の出来 50% S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満				
参考文献等	テキスト:ダウマ=スクルーダー『組織の経済学入門』文真堂、2007年 その他、受講者の関心に従って、適宜紹介する				
実務経験の関連性					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	ガイダンス・導入授業	シラバスに基づいて学習内容を理解する	事前学習	2	自身の関心領域について整理する
			事後学習	2	自身の関心領域と本講義の関連性を整理する
2	市場と組織	市場と組織という2つの制度の違いを理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
3	市場	市場のメカニズムについて理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
4	情報	市場と組織の情報問題について理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
5	ゲーム理論	ゲーム理論から得られる示唆について理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
6	ゲーム理論	ゲーム理論から得られる示唆について理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
7	企業の行動理論	組織行動の理論を理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
8	エージェンシー理論 (1)	エージェンシー理論による組織の説明を理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
9	エージェンシー理論 (2)	エージェンシー理論による組織の説明を理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
10	取引費用の経済学 (1)	取引費用理論による組織の説明を理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
11	取引費用の経済学 (2)	取引費用理論による組織の説明を理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
12	戦略経営への経済学 の貢献	経済学のアプローチから戦略を理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
13	組織の経済学	組織の経済学を包括的に理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
14	組織の経済学	組織の経済学を包括的に理解する	事前学習	2	教科書を精読する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する
15	まとめ	学習した内容を再度検討する	事前学習	2	各自の研究に沿って、14回までに学んだ事項を整理する
			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に沿って整理する

区分	基幹研究科目	科目名	マーケティング戦略研究	担当者	隈本 純
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>マーケティングの学問的探究は、マーケティング・コンセプトの進展とともにその中心的視座が遷移してきた。まず製品志向型のコンセプトが席卷していた頃は、売り手市場の需給関係や製品づくりを支援する活動としてマーケティングをとらえた概念的枠組みの構築が主流であった。ところがモノが普及し販売志向のマーケティング・コンセプトが中心となると、流通経路や在庫管理、消費者に売り込むための広告や販売促進の重要性に関する研究が増えた。その後、これまでのプロダクトアウト型とは対照的に、顧客を出発点としたビジネス展開が重要になると、顧客ニーズの明確化や顧客満足といった消費者の内面的要素をとらえる研究が注目された。さらに、顧客志向の考えを前提に顧客との長期的、継続的かつ双方向の関係性が重視されると、リレーションシップやワン・トゥ・ワン(One to One)マーケティングにかかわる研究が台頭した。同時代頃から顧客満足だけにとどまらず社会の長期的な利益や成長に貢献することも重要だという認識が定着し、社会責任や社会貢献を取り扱う論考も増えた。そしてミレニウム以降の ICT の発展やソーシャルメディアの普及は個人の情報発信すなわち自己実現の機会と場を提供している。よってこれらの社会変化に伴うビジネスの実態や消費者心理・行動の変化をとらえて分析する研究がトレンドとなった。</p> <p>そこで本科目では、以上のマーケティング・コンセプトの変遷をたどるように、製品志向の 1960 年代、販売志向の 1970 年代、顧客志向の 1980 年代、関係性志向の 1990 年代、社会志向の 2000 年代、自己実現志向の 2010 年代以降と区切り、それぞれの時代で最も中心的かつ引用の多い著名な論文に毎週焦点をあて、分析、議論する。注目するジャーナルは Journal of Marketing, Journal of marketing Research, Journal of Consumer research, Marketing Science, Journal of the Academy of Marketing Science, Journal of Retailing, Journal of Advertising, Journal of International Business Studies などである。</p>				
到達目標	<p>受講生の到達目標は以下の 2 点である。</p> <p>1) 事前に論文資料が手渡されるのでそれを読んで予習し、授業でその論考の背景、主張、仮説と検証、結果とインプリケーションについて議論し、理解を深めること。</p> <p>2) さらに、そうした論文の形式、手法、貢献等をふまえて、展開された理論や概念モデルを自らの修士論文で引用できる、あるいは参考とできるようになることを目的とする。</p>				
評価の方法基準	<p>クラス参加・貢献(30%)、課題発表(30%)、期末レポート(40%)の 3 項目により総合的に評価する。以上を次の評価基準に則り総合的に評価する。</p> <p>S:90-100、A:80-89、B:70-79、C:60-69、D:60 未満</p>				
参考文献等	<p>教科書は指定しない。毎週指定論文の資料が配布される。</p> <p>その他の参考書については、クラスの講義内容に合わせて随時紹介していく。</p>				
実務経験の関連性と					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	ガイダンスと導入授業	授業の概要、学習目標、成績評価方法、受講のルールなどについてガイダンスする。導入授業としてマーケティング分野の主要なジャーナルについて解説する。	事前学習	2	マーケティング関連の著名なジャーナルについて事前に調べ、シラバス記載の授業の構成や内容に関して理解しておく。
			事後学習	2	次回の授業に向けて配布資料等見返し、本科目の講義内容を理解する。
2	製品志向時代の論考分析(1)	1960年代までの主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
3	製品志向時代の論考分析(2)	1960年代までの主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
4	販売志向時代の論考分析(1)	1970年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
5	販売志向時代の論考分析(2)	1970年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
6	顧客志向時代の論考分析(1)	1980年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
7	顧客志向時代の論考分析(2)	1980年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
8	関係性志向時代の論考分析(1)	1990年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
9	関係性志向時代の論考分析(2)	1990年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
10	社会志向時代の論考分析(1)	2000年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
11	社会志向時代の論考分析(2)	2000年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
12	自己実現志向時代の論考分析(1)	2010年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
13	自己実現志向時代の論考分析(2)	2010年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
14	自己実現志向時代の論考分析(3)	2010年代の主要な論文を読む	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
15	総括	総括。期末レポートの提出。	事前学習	2	これまでの授業で学んだことについて復習することで、この回の予習とする。
			事後学習	2	受講後はこれまでの配布論文を復習すること。関連する論文を読み理解を深めること。

区分	基幹研究科目	科目名	経営戦略研究	担当者	李 新建
	開 講 期 間	春学期			
	選 択 ・ 必 修 の 別	選択			
	配 当 年 次	1 年			
	単 位 数	2 単位			
	授 業 形 態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>本講義では、経営戦略に関する基本的なアプローチ・枠組みを深く理解し、「戦略的」なものの考え方を身に付けることを目的とする。経営戦略には、SWOT 分析、PPM 分析、バリューチェーン分析などの戦略策定のツールが多数開発されているが、本講義では、それらの具体的なツールより、企業経営を成功させるための基本的な視点と理論的な枠組みの習得に重点をおく。</p> <p>本講義の内容は事例研究を交えながら、経営戦略の基本概念、経営戦略のポジショニング・アプローチ、資源アプローチ、学習アプローチ、一般競争戦略と全社戦略、グローバル統合と現地適応の論理、プラットフォーム戦略などの理論フレームワークの勉強により構成される。受講生の英語力に応じて、経営戦略大家の原著を読み込むことを勧める。事例の選別は別途授業中に指示する。</p> <p>発表担当者は、配布された教材・資料だけではなく、率先して関連文献をサーベイし、要領よく整理して説明することが求められている。発表を担当していない者は単なる「聞き手」になることのないように、事前に予習ノートを準備し、必ず授業中に質問をすることが求められる。</p>				
到達目標	<p>以下の諸点が本科目の到達目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理論文献の輪読・討議を通じて、経営戦略の基本的なアプローチ・理論的枠組みを深く理解することができるようになる。</li> <li>2. 経営戦略の理論の進化に関する考察を通して、学術研究の神髄・道筋を会得することができるようになる。</li> <li>3. ケース研究を通じて経営戦略のリアルな課題とその対策に対する理解を深めることができるようになる。</li> <li>4. 経営戦略の「論理」と「実践」の融合を図ることができる。</li> </ol>				
評価の方法基準	<p>発表、議論への参加度合い及び期末レポートに基づいて評価する。</p> <p>配点は、レジュメによる発表・予習を 40%、議論への参加度などを 30%、最終レポートを 30%とする。</p> <p>評価は 60%以上を合格とし、「S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60 未満」とする。</p>				
参考文献等	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考文献  P.F.ドラッカー (著), ジョゼフ・A・マチャレロ (編集), 上田 惇生 (翻訳), 2012 年, 『経営の真髄:知識社会のマネジメント(上)』, ダイアモンド社。  マイケル・ポーター 『競争の戦略』ダイアモンド社 1995 年。  青島矢一、加藤俊彦 『競争戦略論』 東洋経済新報社 2012 年。  H. Mintzberg, J. Lampel &amp; B. Ahlstrand (原著), 斎藤嘉則等 (翻訳) 『戦略サファリ』東洋経済新報社 1999。  ジェイ B. バーニー 『企業戦略論』(上、中、下) ダイアモンド社 2003 年。  浅川和宏 『グローバル経営入門』 日本経済新聞出版社 2003 年。  Michael E. Porter, Competitive Strategy, New York: Free Press, 1998。  G. Saloner, J. Podolny &amp; A. Shepard (原著), 石倉洋子 (翻訳) 『戦略経営論』 東洋経済新報社 2002 年。</p>				
実務経験の関連性					



	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	経営学と経営戦略論	経営学における経営戦略論の位置づけ	事前学習	2	事前は関心する企業の経営動向を調べておく。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
2	戦略とは何か	戦略の5つのP	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
3	企業の目的	企業の真の目的・目標	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
4	ポジショニング・アプローチ(上)	SCP モデル	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
5	ポジショニング・アプローチ(中)	ポジショニング・アプローチの基本的発想と枠組み	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
6	ポジショニング・アプローチ(下)	ポジショニング・アプローチの応用と問題	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
7	事業競争の一般戦略	3つの一般戦略と「二兎を追う」戦略の可能性	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
8	競争戦略のリスク	3つの一般戦略それぞれの落とし穴と関連する事例研究	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
9	全社戦略	全社戦略の考え方と日本企業 の全社戦略	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
10	資源アプローチ	資源アプローチの理論的背景、内容、ポジショニング・アプローチとの比較	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
11	学習アプローチ	組織学習と組織間学習	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
12	グローバル経営戦略	グローバル統合とローカル適応の論理	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
13	プラットフォーム戦略	プラットフォーム企業の成長の論理	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
14	ケース研究	経営戦略の諸論理を学んだ後の応用的ケース研究。検討するケースに関しては授業中に別途指示する。	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
15	総合発表と期末レポートの提出	期末レポートをまとめ、総括発表を行う。	事前学習	2	これまでの講義内容や授業中の議論を振り返り、期末レポートをまとめておく。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。

区分	基幹研究科目	科目名	人的資源戦略研究	担当者	横山 和子
	開講期間	秋学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>目的 本科目の目的は、人的資源戦略について、マクロ的およびミクロ的視点から、企業の人的資源戦略に関する理解を深めることである。国際的に活躍することを志向する院生、企業の人的資源管理・教育分野を志向する院生、人材開発・派遣企業・シンクタンク等に就職を希望する院生、経営コンサルタントとして活躍を志向する院生が受講の対象となる。上記以外の分野で活躍を志向する院生についても、今後のビジネスキャリアにおいて、就職後のキャリア形成、人的資源管理に関わる事項は自身にとって重要な課題になる。それゆえ、将来のキャリア開発効果は大きいと考えられる。</p> <p>内容 上記の内容を踏まえ、次の事項を中心において、講義・討議方式を主体に、事例研究を交えて指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人的資源戦略の検討視点と検討事項に関する事項</li> <li>2. 経営戦略と人材戦略に関する事項</li> <li>3. 経営者等個人人材の育成方策に関する事項</li> <li>4. ビジネス・パーソンのキャリア開発に関する事項</li> <li>5. グローバルなキャリア開発に関する事項</li> </ol> <p>授業では、テキストの指定された箇所を学生がクラス内で研究発表を行う形式で授業を行う。学生の研究発表は、受講学生数にもよるが、学期内に1回～2回程度の予定である。詳細は第1回目の授業時に行う。本講義は対面形式にて行う。</p>				
到達目標	<p>次の目標に到達できるよう教育・指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 就職後、人材開発専門スタッフとして成長するために必要な基礎・専門的能力を習得できるようになる</li> <li>2. 企業等組織における人的資源戦略について、組織の要請・上司の指示・助言・指導等を理解し、人的資源戦略の立案や運用を行うための基礎的・専門的能力を習得できるようになる</li> <li>3. ビジネス・パーソンのキャリア開発を理解し、専門的視点から助言・指導するために必要な基礎・専門的能力を習得できるようになる</li> <li>4. 海外の企業組織の仕組みを理解し、専門的視点から部下を指導・助言することができる能力を習得できるようになる</li> <li>5. 上記を通じて、企業・自治体等の人材開発部門、海外の組織、人材開発・派遣会社・シンクタンク等において、人的資源管理(HRM: Human Resource Management)の専門スタッフとして、成長し活躍するための能力を習得できるようになる</li> </ol>				
評価の方法基準	<p>評価基準: クラス参加 20%、小課題 20%、研究発表 20%、期末レポート 40%とし、60%以上を合格とする 評価は【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60未満】</p>				
参考文献等	<p>「テキスト」:『人的資源管理の力』(白木三秀編著、文眞堂、2019年、2,700円+税)</p>				
実務経験の関連概要と	<p>国際公務員としての実務経験に基づき、特に新興国に重点を置き海外勤務の有用性を戦略的人的資源管理の側面から講義を行う。国際公務員としての実務経験に基づき、特に新興国に重点を置き海外勤務の有用性を戦略的人的資源管理の側面から講義を行う。</p>				

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	人的資源戦略研究とはなにか	本科目のねらい、授業の進め方、本科目と経営科目との関係、人的資源戦略の検討視点・領域・研究方法等を中心に説明し、質疑・意見交換を行う。授業の効率的進め方についての意見交換も行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人的資源管理、マネジメント、戦略的人的資源管理
			事後学習	2	人的資源戦略管理のテーマで、最も興味を有する分野の一つを選択し、その理由をレポートにまとめ提出すること。
2	戦略と人的資源管理	経営戦略と人的資源戦略との関係、人的資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏まえながら、学生と共に考察を行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 ポジショニング・ベースの競争戦略、リソース・ベース・ビューの競争戦略、ベスト・プラクティスアプローチ、コンティンジェンシー・アプローチ、多角化戦略
			事後学習	2	自動車メーカーのSUZUKIは小型自動車事業を成功させるためにどのような人材を募集したと思うか。自分の考えを展開させながらレポートにまとめ提出すること。
3	採用と導入訓練	募集・採用と教育訓練を中心に人的資源戦略との関係、人的資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏まえながら、考察し、学生と討議を行う。	事前学習	2	OJT、Off-JTのメリット・デメリットを調べる。授業時に確認を行う。
			事後学習	2	「日本型採用方式」と「海外の採用方式」のメリットとデメリットを整理し、レポートとして提出すること。
4	業績管理とコンピテンシー	募集・採用と教育訓練を中心に人的資源戦略との関係、人的資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏まえながら、考察する。学生と討議を行う。	事前学習	2	次の戦略の違いを説明できるようにしておく。授業時に確認を行う。 会社戦略 (corporate strategy)、事業戦略 (business strategy)、機能別戦略 (functional strategy)
			事後学習	2	職能資格制度、コンピテンシー・マネジメントについて概説し、レポートとして提出すること。
5	評価と動機付け	従業員の評価と動機づけのメカニズムを中心に人的資源戦略との関係、人的資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏まえながら考察する。事例を学生と討議する。	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 評価基準、目標管理、多面的評価
			事後学習	2	マズローの欲求5段階説、ハーツバーグの欲求2要因説を実際の事例を使いながら説明し、レポートとして提出すること。
6	報酬管理	欧州を中心に世界各国で普及している職務ベース賃金制度と職務遂行能力や属人的要素の人をベースとする日本型賃金制度の比較を行い、両制度のメリット・デメリットの検討を行う。	事前学習	2	次の用語の意味を調べる。授業時に確認を行う。 職務ベース賃金制度、日本型賃金制度
			事後学習	2	マーケットペイの具体例(例:マーサー、日本総報酬サーベイ2020年、 <a href="https://www.mercer.co.jp/">https://www.mercer.co.jp/</a> )を調べ、レポートとして提出すること。
7	リーダーシップ	リーダーシップ研究における特性研究、行動研究、状況適応理論への発展過程を紹介し、リーダーに求められる要件について討議を行う。	事前学習	2	行動理論の中の、ミシガン大学研究、オハイオ州立大学研究を調べる。授業時に確認を行う。
			事後学習	2	リーダーに求められる要件を考えレポートとして提出すること。
8	キャリア形成	キャリアとは広義では人間の生涯を通じたさまざまな経験の連鎖を示し、狭義では仕事の経験によって形成される経歴や仕事生活パターン・意味づけを意味する。授業では広義のキャリア形成について講義を行う。学生と討議を行う。	事前学習	2	スーパーのライフ・ステージ論の各段階について調べる。授業時に確認を行う。 成長段階、探索段階、確立段階、維持段階、下向段階
			事後学習	2	スーパーの分類に従えば、受講学生は人生の探索段階にいる。希望で構わないので、将来どのように確立段階、維持段階、下向段階を過ごしたいか、自身のキャリア計画を作成し、レポートとして提出すること。
9	グローバル人材開発	経済・人材のグローバル化が進む中、なぜ自律型のキャリア計画が必要であるかについて事例を交えながら説明を行う。学生と討議を行う。	事前学習	2	パウルムッターの多国籍企業発展論(本国志向型、現地志向型、世界志向型)を調べる。授業時に確認を行う。
			事後学習	2	日本企業におけるグローバル人材育成に向けての課題についてレポートとして提出すること。
10	ダイバーシティとインクルージョン	女性と外国人労働者を労働力として活用することは人口減少を続ける日本経済にとり重要な施策である。授業ではダイバーシティ・マネジメントの現況を日本と海外の事例から検討を行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 M字型曲線、ポジティブアクション
			事後学習	2	日本の生産人口の減少、対応策についてダイバーシティ・マネジメントとインクルージョンの面からレポートを作成し提出すること。
11	ワーク・ライフ・バランス	日本でのワーク・ライフ・バランスの現況をコロナ禍の前と後でどのように変化しているか、データを使いながら講義を行う。その後、学生と討議を行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 女性のWLB、男性のWLB
			事後学習	2	高齢化社会への対応策として、女性活用、高齢者活用、外国人活用について調べ、レポートとして提出すること。
12	人事部の機能と役割	日本企業における人事部の役割と機能について講義を行う。特に留学生向けに、海外の企業の人事部と日本企業の人事部の役割の違いについて言及する。	事前学習	2	何故、日本の大企業は欧米企業に比べ人事部が大きな影響力を持っているかについて調べる。授業時に確認を行う。
			事後学習	2	日本企業で人事担当者になる場合と欧米企業で人事担当者になる場合の職務経験の違いについてレポートにまとめ提出すること。
13	労使関係と人的資源管理	集団的労使関係と個別的労使関係の現状と課題について講義を行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 集団的労使関係、個別的労使関係、労資と労使の違い
			事後学習	2	日本の労働組合直面している課題をレポートにまとめ提出すること。
14	セーフティネットと人的資源管理	予期せぬ出来事に対応するセーフティネットの役割と機能について講義を行う。学生との討議も行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 社会保障制度、健康保険、年金保険、介護保険、労災保険、
			事後学習	2	アジア諸国での社会保障制度について調べレポートにまとめ提出すること。
15	学生の研究発表	人的資源戦略に関するテーマで学生が研究発表を行うと共に、研究レポートを提出する。	事前学習	10	研究発表の準備、レポートの執筆
			事後学習	2	他の受講学生の研究発表に基づき学生は振り返りを行う。

区分	基幹研究科目	科目名	財務会計研究	担当者	富田 洋介
	開講期間	秋学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的	<p>講義内容</p> <p>本講義では企業の財務担当者ほどの様なことを目標に活動しているのかを適切に理解する。財務会計が理解できると企業活動の結果が財務諸表等に現れるため経営の現状把握などについて理解が深くなる。したがって、本講義では習得する内容は高度であるものの、初学者にも理解しやすく解説するつもりである。</p> <p>本年度の本講義は対面にて行われる。</p> <p>履修上の注意</p> <p>本講義はテキストを通読する形で進める。テキストの精読については学生への課題であるが、講義内では疑問点や重要なポイントについて解説していく。やむを得ず欠席する場合には、担当教員へ必ず連絡をすること。授業計画については学生の理解度によってフォローアップを行うため変更の可能性がある。</p>				
到達目標	<p>1) 企業の財務諸表について学生自身の考えによって評価できること。</p> <p>2) 財務会計の基本的な考え方とプロセスを習得すること。</p> <p>3) 企業財務について資本コストと企業価値の両面の関連性を理解すること。</p> <p>上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。</p>				
評価の方法	<p>評価方法</p> <p>講義への積極性(平常点および課題)50%+期末レポート50%</p> <p>履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。</p> <p>評価基準</p> <p>下記の基準によって評価する。</p> <p>【S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60 未満】</p>				
参考文献等	<p>テキスト</p> <p>『財務会計・入門 (第14版)』、桜井久勝、須田一幸、2021年、有斐閣アルマ</p>				
実務経験の関連性	<p>証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。</p>				

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	イントロダクション・導入授業	講義の進め方と財務会計の概略について解説する。	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。 また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	会計の種類と役割	財務会計の役割について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	財務会計のシステムと基本原則	複式簿記の構造や資産評価の原則を学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	企業の設立と資金調達	企業形態としての株式会社を中心に学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	仕入と生産活動	営業循環や人件費について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	販売活動	売上げに関する計測と財務諸表の関連性を解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	設備投資と研究開発	減価償却、研究開発、無形固定資産について議論される。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	資金管理と運用	資金運用(短期)(長期)について解説する。金融における短期とは1年以内の取引を指し、長期とは1年を超える取引のことを指す。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
9	国際活動	輸出入や為替について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	税金と利益処分	企業財務と税の関係について議論される。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	財務諸表の作成と公開	ディスクロージャーについて議論される。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	企業集団の財務報告	連結財務諸表の重要性について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	財務諸表による経営分析	財務分析指標について考察する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	金融機関と一般事業会社	金融機関と一般事業会社の相違について確認し議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	財務会計と事例	テキストの事例に基づいて考え方を整理する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区分	基幹研究科目	科目名	管理会計研究	担当者	小川 華代
開講期間		秋学期			
選択・必修の別		選択			
配当年次		1年			
単位数		2単位			
授業形態		講義科目			
実務経験の有無					
ディプロマポリシー(DP)における教育目標		現代的な経営課題についての深い知識の修得			
カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ		CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	<p><b>【講義の目的】</b>                  管理会計とは、組織のあらゆる階層の経営管理者のために、その経営管理に不可欠な原価情報を測定し、伝達する理論と技術である。しかし、会計は単なる計算技術体系に過ぎず、いかに会計実務が精緻化されたとしてもそれ自体はなにも経済的価値を生み出さない。重要なことは、計算技術の内容や形式とその背後にある社会経済的背景との関係性を把握することである。そのうえで、経営管理者にとって管理会計の技法がどのように活用されるのかを理解することを目的とする。</p> <p><b>【講義の内容】</b>                  (1)管理会計・原価計算の基礎                  (2)コスト・コントロールとコスト・マネジメント                  (3)CVP分析                  (4)ABCとABM                  (5)DCF法を用いた設備投資の判定</p>				
到達目標	管理会計の基礎的な内容を理解し、企業形態に合わせた様々な手法を用いて経営意思決定と業績評価を行うことができるようになることを目標とする。				
評価の方法基準	<p><b>【評価方法】</b>                  授業への貢献度および、レポートを総合的に評価する</p> <p><b>【評価基準】</b>                  レポート40%、授業への貢献60%とする。                  評価は A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:60未満とする。</p>				
参考文献等	<p><b>【テキスト】</b>                  村田直樹・相川奈美・編著『会計による経営管理』, 税務経理協会, 2012年。</p> <p><b>【参考文献】</b>                  村田直樹編著『会計学ハンドブック』創成社, 2021年。</p> <p><b>【参考資料】</b>                  必要に応じて適宜、プリントを配布する。</p>				
実務経験の関連概要と					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	管理会計の概要	管理会計の概要と研究手法について説明する。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
2	原価計算・管理会計の基礎	原価計算・管理会計の基礎の内容について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
3	実際原価計算による価格設定	価格設定の基礎について実際原価計算の手法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
4	受注生産のための個別原価計算	個別原価計算の手法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
5	部門別原価計算による正確な原価情報の提供と原価管理	部門別原価計算の意義と手法について学習する。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
6	大量生産のための総合原価計算	総合原価計算の基礎と工程別、組別、等級別の原価計算の手法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
7	工場会計の独立と決算のための計算	工場会計と記帳手続について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
8	コスト・コントロールのための原価計算	原価管理の意義と仕組みについて学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
9	コスト・マネジメントのための原価計算	現代における原価管理とコスト・マネジメントの手法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
10	不況期のための原価計算	直接原価計算の意義と分析手法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
11	目標利益	目標利益とCVP分析の手法について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
12	活動基準原価計算による製品戦略	ABCの意義と仕組みについて伝統的原価計算との相違点を学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
13	特殊原価調査による経営意思決定	特殊原価調査の意義と手順について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
14	品質原価計算によるコスト・マネジメント	品質原価計算の基礎と分析について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。
15	設備投資のための経済性計算	設備投資の要件とDCF法による設備投資の判定について学ぶ。	事前学習	2	主題に対する疑問点を整理しておくこと。
			事後学習	2	テキストの該当箇所を熟読すること。

区分	基幹研究科目	科目名	ファイナンス戦略研究	担当者	富田 洋介
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	本講義では企業における資金調達や付随する投資戦略について研究する。特にコーポレート・ファイナンス、つまり、企業側と、インベストメントファイナンスの側面、つまり、投資家の側面の両面から議論を重ねていく。本講義では企業にとって機動的な財務戦略とは何か。もしくは投資家が考えるべき投資戦略はどのようなものか。という内容について検討される。 講義の進め方としてはテキストの輪読形式にて行う。したがって、事前の予習は不可欠となる。				
到達目標	①企業の資金調達、投資理論などは学生さん自身で適切な説明ができるようになること。 ②専門的な視点から金融経済ニュースを読み解き、アカデミックな切り口から自分なりの意見を持つこと。 ③企業財務にかかわる簡単な数理計算ができるようになること。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。				
評価の方法基準	(1)評価の方法 レポートによる中間評価(50%)と期末試験またはレポート(50%)を合わせて総合評価する。 履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。 (2)評価の基準 総合評価は100点満点の素点で表し、以下の基準で成績とする。 【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60未満】				
参考文献等	テキスト 田中 慎一, 保田 隆明、『コーポレートファイナンス 戦略と実践』ダイヤモンド社、2019年				
実務経験の概要と	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。				



	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	イントロダクションとファイナンスの概略について	講義の進め方とテキストのストーリーを概観する	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	リスクとリターン	リスクとリターンの概念を適切に理解する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	ハードルレートとは	投資家が求める収益率について解説される	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	投資収益の測定方法	投資収益を測定するいくつかの方法を紹介する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	資本構成	資本コストについて議論する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	資本構成の応用	資本コストに関する理論的なモデルを解説する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	資本構成の変化と枠組み	資本構成の変化について議論する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	配当政策について	配当の効果について議論する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
9	配当政策の分析	配当の変化が企業価値にどのような影響を与えるのかについて議論される。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	企業価値について	企業価値の算定方法について触れる	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	デリバティブについて	先物・オプションなどの簡単なデリバティブについて学ぶ	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	統計処理の基礎	ファイナンスに必ず必要な統計処理の基礎を学ぶ	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	資金調達市場の国際比較	資金調達市場は国によって異なっているのかどうかを概観する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	最近のトピック I	最近の論文について議論する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	まとめと総復習	これまでの重要点を総復習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区分	基幹研究科目	科目名	不動産運用設計	担当者	富田 洋介
	開 講 期 間	秋学期			
	選 択 ・ 必 修 の 別	選択			
	配 当 年 次	1 年			
	単 位 数	2 単位			
	授 業 形 態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	本講義では、不動産運用設計を金融的側面から解説する。不動産に関わる運用について、個人レベルでは資金を調達することからスタートし、運用とその資産管理など幅が広い。事業レベルでは、資産担保証券による資金調達やその証券を組み込んだ投資信託など多岐にわたる。したがって、本講義では包括的に不動産について議論し学生諸兄の意見や疑問を中心に扱う。もちろん、ファイナンシャル・プランナーの資格に向けての興味も学生諸兄の中にはあるであろうことから、体系的な学習についてもきちんと押さえていく予定である。不動産運用設計は金融に関する知識が多く求められる分野であるが、基礎的な事象に関しても丁寧に解説していく予定である。ファイナンシャル・プランニングに際しても、不動産分野は生活と密着していることから重要であるため、是非しっかりと基礎的な事項については習得して頂きたい。				
到達目標	①不動産運用設計に関する用語や理論を理解する。 ②実際に公表されている統計資料などを用いて、基礎的な分析方法を習得する。 ③不動産に関連する金融市場の理解を深める。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。				
評価の方法基準	○評価の方法 講義に対する積極性(課題に対する取り組み方、質問、意見、議論について)(50%)と期末試験またはレポート(50%)を合わせて総合評価する。 ○評価の基準 総合評価は100点満点の素点で表し、以下の基準で成績とする。 【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60未満】				
参考文献等	□使用テキスト 『FPテキスト/不動産運用設計』FP協会、最新版、日本FP協会 □参考図書 『うかる！FP3級速攻テキスト2022-2023年版』フィナンシャルバンクインスティテュート株式会社、2022年、日本経済新聞出版社 『22～23年版合格ターゲット1級FP技能士特訓テキスト 学科』きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター、2022年、株式会社きんざい				
実務経験の関連性	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。				

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	講義の進め方と学習の方法について:FPとは	本講義を受講するにあたって必要な予習復習および自己学習の方法について説明する。 また、FPとはいかなるものかについて概説する。	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。 また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	資産としてみた不動産	基本的な不動産の定義と用語の確認を行う	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	アセットアロケーションと不動産(基礎編)	パーソナルファイナンスにおける不動産の役割について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	アセットアロケーションと不動産(応用編)	不動産投資信託について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	不動産投資分析	不動産の収益と証券化について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	不動産の価格評価	不動産の価値の決定方法を解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	不動産取引(基礎)	不動産を取引する際に必要となる知識について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	不動産取引(応用)	不動産に関する制度的な背景について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
9	不動産関連法(前半)	不動産取引にかかる法律を中心に議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	不動産関連法(後半)	国や地方自治体と不動産についての法律を学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	不動産関連税制(前半)	不動産取得と保有に関わる税制について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	不動産関連税制(後半)	不動産譲渡にかかる税制について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	不動産の有効活用	事業や相続に関する内容について議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	不動産と金融市場	不動産と金融市場の関わりについて統計資料などを用いて議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	テキストの総復習	講義中に説明した重要ヶ所についておさらいをする。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区分	基幹研究科目	科目名	パーソナルファイナンス	担当者	富田 洋介
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	パーソナル・ファイナンスでは年金、生命保険、資産運用、税金、不動産、贈与・相続など幅広い知識が必要となる。パーソナル・ファイナンスはただ単に金融業界の知識と思われがちであるがキャリアアップを目指す実務家や就職活動をひかえた学生、家計の見直しのためには必要な知識となる。したがって、本講義でパーソナル・ファイナンスに関わる基礎知識を習得し将来の人生設計に役立ててもらいたい。				
到達目標	本講義を通じてパーソナル・ファイナンスに関する基礎的な用語・知識を身に着けることが目標となる。パーソナル・ファイナンスを学習することで、より一層実践的な知識が身につくことを期待している。 ①年金制度について理解している。 ②各種健康保険について説明できる ③ライフプランに基づいたファイナンシャルプランニングが組める。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。				
評価の方法基準	○評価の方法 講義への積極性(課題への取り組み、質問、意見、議論)(50%)と期末試験またはレポート(50%)を合わせて総合評価する。 ○評価の基準 総合評価は100点満点の素点で表し、以下の基準で成績とする。 【S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60未満】				
参考文献等	○主要テキスト 『CFP®資格標準テキスト(ライフプランニング・リタイアメントプランニング)』最新版、日本FP協会 ○参考図書 『わかる! FP3 級速攻テキスト 2022-2023 年版』フィナンシャルバンクインスティテュート株式会社、2022年、日本経済新聞出版社 『22~23年版合格ターゲット 1級FP技能士特訓テキスト 学科』きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター、2022年、株式会社きんざい				
実務経験の関連性	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。				

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	講義の進め方と学習の方法について	本講義を受講するにあたって必要な予習復習および自己学習の方法について説明する。	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので目次などの全体像に目を通すこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	パーソナル・ファイナンスの基礎知識	パーソナル・ファイナンスに関する基礎的な用語と考え方について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	ファイナンシャルプランナーとは	FPの特徴やそのビジネスに関連する内容について議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	教育資金設計と住宅資金設計	教育にかかる資金の全体像や教育資金の準備などについて学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	社会保険の基礎知識と医療保険制度・労働保険制度について	社会保険の意義や健康保険、国民健康保険について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	各種ローンとカードと金融市場について	ローンやカードについて学習すると同時に金融機関の役割について考察する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	リタイアメントプランニングの全体像	退職後の資産運用やライフデザインについて議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	年金制度の全体像と公的年金について(前半)	公的年金の種類とそれに付随する税制などについて学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
9	公的年金制度(後半)	公的年金の制度的枠組みについて学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	公的介護保険および退職後の医療について	介護保険の概要と医療保険制度の選択について議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	企業年金および退職金の基礎知識	企業年金や個人年金制度、退職金の制度的な体系について学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
12	金融資産の運用に関して(株式・債券)	株式・債券について基礎的な知識を学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
13	金融資産の運用に関して(投資信託)	投資信託の制度について学習する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	日本経済の読み方について	基礎的な統計資料を用いて日本経済の景気について議論する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	総復習	理解の確認と疑問点などについての整理を行う。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

区分	基幹研究科目	科目名	リスクマネジメント	担当者	畔上 秀人
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	現代的な経営課題についての深い知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。			
講義の目的内容	リスクと不確実性の概念を考え、リスクに対処する方法として、実際に使われているものの仕組みを学ぶ。その中心は保険であり、保険は生命保険と損害保険に大別することができる。本講義では、保険と税のかかわりについても扱う。				
到達目標	リスクマネジメントの概念を理解し、実際の保険の仕組みとその利用の仕方を、他者に助言することができるようになる。				
評価の方法基準	(1)評価方法 授業内での課題と授業参加度 40% 最終課題 60% (2)評価基準 S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60 未満				
参考文献等	テキスト 『CFP®資格標準テキスト リスクと保険』2022-2023年版、日本FP協会				
実務経験の関連性					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	保険業法	保険業法、保険法、その他保険に関連する法律について学習する。	事前学習	2	保険業法と保険法が、それぞれどのような役割分担になっているのかを調べる。
			事後学習	2	実際の保険会社のホームページを参照し、法律に基づいて経営されていることを確認する。
2	保険約款	保険約款に記載されている、告知、責任開始期、保険金支払要件等について学習する。	事前学習	2	告知とはどのような行為であるのかを学習する。
			事後学習	2	実際の保険約款を参照し、専門用語を復習する。
3	狭義の生命保険の商品性	狭義の生命保険、すなわち死亡保険とはどのような保険商品なのか、学習する。	事前学習	2	人が死亡した際、遺族に一定の金額が給付される必要のある状況を、具体的に想像してみる。
			事後学習	2	実際の保険商品の設計を参照してみる。
4	個人年金保険	年金保険も人の生死に関して給付がなされる点で、生命保険といえる。その場合、貯蓄や資産形成とはどのように異なるのかを学習する。	事前学習	2	トンチン年金とはどのようなものなのか、調べる。
			事後学習	2	年金パズルが発生する心理を考えてみる。
5	第3分野保険	第1分野の生命保険と第2分野の損害保険に加えて、第3分野が存在する意味を学習する。	事前学習	2	医療保険とはどのようなものか、調べる。
			事後学習	2	医療保険以外の第3分野保険について、保険会社のホームページで調べる。
6	保険証券の読み取り	保険証券とはどのようなものか、提案書との違いは何か、について学習する。	事前学習	2	テキストの保険証券の例を読む。
			事後学習	2	実際の保険証券を読んでみる。
7	個人の生命保険設計	個人の保障として、死亡保障、医療保障、生前保障について学習する。また、団体信用生命保険等、その他個人がよく利用する生命保険についても取り上げる。	事前学習	2	財形貯蓄保険とはどのようなものかを調べる。
			事後学習	2	個人による保険の利用が、税制面から促進されている意味を考える。
8	生命保険と税金	第7回に引き続き、生命保険と税金の仕組みとが関連していることを学習する。	事前学習	2	生命保険料控除とは何であるのか、調べる。
			事後学習	2	生命保険料や医療費の控除で所得税がどのように変化するのか、シミュレーションしてみる。
9	相続設計	相続が発生すると、家計にどのような負荷がかかるのかを説明する。そして、その負荷を軽減する手法の一つに生命保険の利用があることを学習する。	事前学習	2	相続税の概要を調べる。
			事後学習	2	暦年贈与と生命保険契約の関係を復習する。
10	法人のリスクマネジメント	特に中小企業の経営に当たって直面するリスクに対して、保険がどのように活用されているのかを学習する。	事前学習	2	企業向けの保険を調べる。
			事後学習	2	実際の損害保険商品を、保険会社のHPなどで調べ、見積を試算する。
11	法人契約の生命保険と税務	法人が保険料を支払えばキャッシュアウトフローが発生するが、将来保険金を受取れば、キャッシュインフローの発生となる。これらを会計上、どのように扱うのかを学習する。	事前学習	2	保険料の仕訳について調べる。
			事後学習	2	いわゆる節税保険とはどのようなものかを調べる。
12	損害保険の仕組み	損害保険の対象、保険料の基本原則、そして製造物責任法について学習する。	事前学習	2	身近な損害保険として、火災保険か自動車保険の仕組みを調べる。
			事後学習	2	製造物責任法が制定された経緯を調べる。
13	損害保険の商品性	火災保険、地震保険、自動車保険、傷害保険、賠償責任保険、店舗休業保険などについて学習する。	事前学習	2	事故の損失を補填する保険と、賠償責任保険との違いを調べる。
			事後学習	2	海外旅行傷害保険の保険金支払い要件と免責事項を調べる。
14	損害保険と税金	損害保険料も所得税において所得から控除することができる。それがどのような仕組みであり、どのような意義を持つのか、学習する。	事前学習	2	企業のケースと対比して、個人の保険料の取扱いについて調べる。
			事後学習	2	個人事業主の保険料の取扱い方を調べる。
15	リスクマネジメントとしての保険	保険はリスクマネジメントのすべてではないが、有力な手法である。これまでに学習してきた内容を整理し、保険によらないリスクマネジメントについても考察する。	事前学習	2	保険ではカバーしきれないリスクを考えてみる。
			事後学習	2	人生の中で保険が必要となる場面を想像してみる。

区分	基幹研究科目	科目名	特別講義Ⅰ	担当者	清水 由美
	開講期間		春学期		
	選択・必修の別		選択		
	配当年次		1年		
	単位数		1単位		
	授業形態		講義科目		
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標		現代的な経営課題についての深い知識の修得		
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ		CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。		
講義の目的内容	<p><b>【目的】</b> アカデミックな場面での口頭発表のしかたと、発表用の視覚資料に使う日本語表現を学ぶ。</p> <p><b>【内容＝授業の流れ】</b> ①各回のテーマに従って、短い発表のためのスライドを作成し、口頭発表のためのノート(＝発表原稿)を書く。 ②講師からのフィードバックを参考に、スライドとノートを修正・完成し、口頭発表の練習をする。 ③クラスで発表をし/クラスメートの発表を視聴し、質疑応答を行う。 ※原則として、1つのテーマについて2週かけて準備と練習をし、3週めに発表する。 ※最終発表のテーマは、秋学期の特別講義Ⅱ(レポート)の最終レポートのテーマと共通で、「日本の〇〇に対する違和感」とする。</p> <p><b>【授業の実施形態】</b> ◇スライドとノートの準備(上記①と②)＝オンライン(オンデマンド) ◇発表(上記③)＝対面 ※ただし、必要に応じてオンライン(ライブ)や、予定外の対面授業を行うこともある。 各回の授業形態は前日までにキャンパスクロスで予告するので、必ず事前に確認すること。</p>				
到達目標	<p>①書きことばと話しことばの違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。 ②聞き手の興味を引きつけ、伝えたい内容をわかりやすく効果的に伝えるための話し方を身につける。 ③見やすくわかりやすい視覚資料(おもにスライド)を作成するための日本語表現を身につける。 ④自分の研究テーマや関心のある問題について、視覚資料を用いて口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。 ⑤ほかの受講生の発表を聞き、質問や意見交換ができるようになる。 ⑥自分の書いた文章や自分の口頭発表の形式・内容について、問題点に気づき、修正できるようになる。</p>				
評価の方法基準	<p>(1)評価方法 各回の練習課題(スライドと発表ノート)30%、各回の口頭発表 20%、授業への参加貢献(クラスメートの発表に対するコメントなど)10%、最終発表 40%</p> <p>(2)評価基準 <b>【S:90～100 A: 80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】</b></p>				
参考文献等	<p>・必要に応じて、説明の動画や参考資料を配信する。 ・テキスト:『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク ※このテキストは秋学期「特別講義Ⅱ」で本格的に使用するものだが、「特別講義Ⅰ」の口頭発表に際しても参照するので、春学期のうちに購入しておくことが望ましい。秋学期「特別講義Ⅱ」を受講しない学生は、購入しなくてもよい。</p>				
実務経験の関連概要と					



	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	オリエンテーション、口頭発表に関する理解の共有	・シラバス確認 ・自己紹介(2種類の自己紹介) ・口頭発表の経験と日本語力確認のためのアンケート ・メモと発表原稿の違いを確認する ・最終発表のテーマを考える	事前学習	0.5	シラバスを読み、自己紹介で話すことを考えておく Microsoft Teams への登録
			事後学習	1.5	・2種類の自己紹介(メモと発表ノート)作成 ・最終発表のテーマを考える
2	・見やすいスライドを作る ・メモ/スライドを見ながら話す	・メモの作り方(=箇条書きのしかた) ・メモを見ながら話す練習	事前学習	0.5	講師からのフィードバックを参考に、自己紹介のスライドを作成する
			事後学習	1	発表の練習
3	発表「理想の自己紹介！」	スライドを使って自己紹介をし、質疑応答をする	事前学習	1	講師からのフィードバックを参考に、スライドを完成し、発表の練習をする
			事後学習	0.5	クラスメートによる自己紹介に対して、質問やコメントをする
4	写真や図の説明	写真などの画像を見せて、聞き手の興味を引きつつ、わかりやすく解説する	事前学習	1	見ただけではわかりにくい画像を1枚選び、解説のためのスライドと発表ノートを作成する
			事後学習	1	講師からのコメントを参考に、スライドとノートを修正・完成する
5	発表「何これ？」	発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
			事後学習	0.5	クラスメートの発表について質問やコメントをする
6	対比を明確にする	「コロナ禍で得たもの、失ったもの」について、スライドと発表ノートを作成する	事前学習	2	テーマについて、箇条書きで見やすいスライドを作成し、ノートを準備する
			事後学習	1	講師からのコメントを参考に、スライドとノートを修正・完成する
7	発表「コロナ禍で得たもの、失ったもの」	発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
			事後学習	0.5	クラスメートの発表について質問やコメントをする
8	事実・伝聞(引用)・自分の意見をきちんと分ける	「今気になっているニュース」を1つとりあげ、概要をわかりやすくまとめて紹介する	事前学習	1	「今気になっているニュース」を1つ選び、紹介のためのスライドとノートを作成する
			事後学習	1	講師の意見を参考に、スライドとノートを修正・完成する
9	発表「今気になっているニュース」	発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
			事後学習	0.5	クラスメートの発表について質問やコメントをする
10	数字の意味を伝える	気になるデータ(グラフや表)を1つ選び、「数字の意味」をわかりやすく紹介する ※特別講義Ⅱの教科書、第6～8課を参考にすること	事前学習	2	気になるデータを含むグラフあるいは表を1つ選び、出典を示したうえで、その内容をわかりやすく紹介するためのスライドと発表ノートを作成する。
			事後学習	1	スライド・ノートの修正
11	発表「気になるデータ」	発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
			事後学習	0.5	クラスメートの発表について質問やコメントをする
12	「日本の〇〇に対する違和感」①	最終発表のテーマを決め、アウトラインを作成する	事前学習	2	テーマを決め、アウトラインを作成する
			事後学習	1	講師の意見を参考に、アウトラインを修正する
13	「日本の〇〇に対する違和感」②	アウトラインに沿ってスライドを作成し、発表ノートを作成する	事前学習	2	スライドと発表ノートの作成
			事後学習	2	スライドと発表ノートの修正
14	「日本の〇〇に対する違和感」③	スライドとノートを修正し、話す練習をする	事前学習	0.5	発表の練習と、質問の準備
			事後学習	1	スライドの完成と発表の練習
15	最終発表「日本の〇〇に対する違和感」	・発表し、質疑応答をする ・授業評価	事前学習	1	発表の練習
			事後学習	0.5	授業評価

区分	基幹研究科目	科目名	特別講義 II	担当者	清水 由美
	開講期間		秋学期		
	選択・必修の別		選択		
	配当年次		1年		
	単位数		1単位		
	授業形態		講義科目		
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標		現代的な経営課題についての深い知識の修得		
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ		CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。		
講義の目的内容	<p><b>【目的】</b>  ①レポート作成に必要な日本語の語彙・表現形式、およびレポートの構成について学ぶ。  ②「日本の〇〇に対する違和感」というテーマのもとに関心のあるトピックを1つ選び、必要な情報・資料を集め、学期末に最終レポートを仕上げ提出する。</p> <p><b>【内容】</b>  ①一般的なレポートの構成に沿って、段階的に必要な知識を学び、練習をする。  ※事前にテキストの内容をしっかりと予習する。⇒予習内容の確認のためのクイズを受ける。⇒疑問があれば授業で質問する。⇒短い課題文を書いて提出する。  ②必要に応じて、最終レポート執筆のための相談や意見交換の場を設ける。  ※最終レポートの大枠のテーマは、春学期の特別講義 I (口頭発表) の最終発表と共通で、「日本の〇〇に対する違和感」とする。</p> <p><b>【授業形態】</b>  原則としてオンライン(ライブ/オンデマンド)で行うが、必要に応じて対面授業も実施する。  ※各回の授業形態は、前日までにキャンパスクロスで予告するので、必ず確認すること。</p>				
到達目標	①レポート作成に必要な日本語の語彙・表現形式、およびレポートの構成についての知識を身につける。 ②関心のあるテーマについて、A4版3ページ程度(資料は別)の、説得力のあるレポートを仕上げる。 ③自分やほかの受講生が書いたものについて、意見交換ができるようになる。 ④教師による修正案を見て、自分の日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。				
評価の方法基準	(1)評価方法 予習確認クイズ:20%、各回の課題文:40%、最終レポート:40% ※予習確認クイズは「きちんと予習して満点を取る」のが目的である。そのためには何回受験してもよい。 (2)評価基準 【S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60未満】				
参考文献等	『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク ※春学期の「特別講義 I」で参考書として紹介したテキストと同じもの				
実務経験の関連概要					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	オリエンテーション、レポート作成に関する理解の共有	・授業の概要説明 ・自己紹介 ・書いてみたいテーマについて意見交換	事前学習	0.5	最終レポートのテーマとして、関心のあることをクラスで話せるようにしておく
			事後学習		
2	話し言葉と書き言葉の違いを意識し、レポートの構成を知る	・テキスト1、2課「作文の基本」 ・アウトライン、情報・資料の集め方	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
3	引用のマナー、アウトラインの検討	・テキスト11課「引用」 ・アウトラインの検討	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
4	レポート序論#1	・テキスト3課「課題の提示」 ・前回課題(文献リストと引用)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
5	レポート序論#2	・テキスト4課「目的の提示」 ・前回課題(「課題の提示」文)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
6	レポート本論#1	・テキスト5課「定義と分類」 ・前回課題(「目的の提示」文)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
7	レポート本論#2	・テキスト6課「図表の提示」 ・前回課題(「定義と分類」)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
8	レポート本論#3	・テキスト7課「変化の形容」 ・前回課題(「図表の提示」)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
9	レポート本論#4	・テキスト8課「対比と比較」 ・「変化の形容」の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
10	レポート本論#5	・テキスト9課「原因の考察」 ・前回課題(「対比と比較」)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
11	レポート本論#6	・テキスト10課「列挙」 ・前回課題(「原因の考察」)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
12	レポート本論#7	・テキスト12課「同意と反論」 ・前回課題(「列挙」)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
13	レポート結論	・テキスト13課「帰結」14課「結論」 ・前回課題(「同意と反論」)の読み合わせ	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
			事後学習		
14	最終レポートのテーマと構成を確定し、執筆にかかる	レポート相談会(個別対応) 前回課題(「帰結/結論」)の読み合わせ	事前学習	2	最終レポートのテーマを決め、アウトラインを完成する
			事後学習		
15	最終レポートを仕上げる	レポートの仕上げと、学生による授業評価	事前学習	2	最終レポートの仕上げ
			事後学習		

区分	関連研究科目	科目名	ビジネス経済研究	担当者	田中 巖
	開 講 期 間	秋学期			
	選 択 ・ 必 修 の 別	選択			
	配 当 年 次	1 年			
	単 位 数	2 単位			
	授 業 形 態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	自己の研究を発展させる知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-3 主要な職能分野の専門的知識を補完し、各自の研究課題に関連した知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>本講義では、Managerial Economics(経営経済学)あるいは企業の経済学の観点から、基本的な経済学の理論と政策効果の分析方法を学習することを目的とし、自らの問題意識に基づいて研究していくことが出来るようになることを目指す。最適化問題、需要の理論、生産とコスト(費用)の理論、市場均衡、余剰分析について学び、様々な制約条件の下で最適な判断を行うための考え方を身につける。市場均衡の概念に慣れ、政策の影響について検討する方法を理解する。投資の理論を学習し、企業価値を高めることの理解を深める。また、ケーススタディーを用いて経済学の意味決定手法が現実の世界でも応用されていることを知り、グローバルな時代のビジネスリーダーの意思決定に関して考察していく。</p> <p>以下のテーマについて学習する。</p> <p>(1)経営経済学の性格と範囲  (2)経済学における最適化問題  (3)需要の理論  (4)生産の理論  (5)コスト(費用)の理論  (6)市場均衡、市場構造と競争、余剰分析  (7)投資の理論  (8)寡占産業と企業形態、多角化、多国籍化</p>				
到達目標	<p>(1)経済学の基本概念、特に最適化問題について理解する。  (2)需要と供給の理論、市場均衡について理解する。  (3)余剰分析を応用し政策評価ができるようになる。  (4)完全競争市場と独占市場のモデルを習得し応用できるようになる。  (5)寡占産業(市場)の特徴と企業間競争について理解し応用できるようになる。  (6)企業の投資行動と企業価値について理解する。  (7)企業の多角化、多国籍化について理解する。</p>				
評価の方法基準	<p>(1)評価方法  ウエイトは、授業参加(特にディスカッション)を40%、期末レポートを60%とする。  (2)評価基準  評価は、S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60未満 とする。</p>				
参考文献等	<p>テキストは指定しない。授業の中で、必要に応じて参考文献等を紹介・指定していく。  ただし、次の書籍は参考書として多用する。  福岡正夫、『ゼミナール経済学入門』第4版、日本経済新聞出版社、2008年。  小田切宏之、『企業経済学』第2版、東洋経済新報社、2010年。  また、ケーススタディーが豊富な以下の参考文献も教材として用いる。  使用するページ(英文)は、ケーススタディーを含め、コピーして配布する。  Salvatore, Dominic, Managerial Economics in a Global Economy. Oxford University Press, 2007.</p>				
実務経験の関連性					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	イントロダクション、Managerial Economics (経営経済学) とは、経済学と経営学の接点	授業の進め方についての説明、意思決定と意思決定の5段階、企業の価値について	事前学習	2	経済学について、どのような学問であったか振り返っておく
			事後学習	2	経済学と経営学の関連性について確認する
2	経営経済学の範囲と性格	企業(生産者)の理論、会計利潤と経済利潤、機会費用、グローバル化と経営経済学	事前学習	2	ミクロ経済学の復習、配布したケーススタディーを予習
			事後学習	2	配布資料の復習と、それに関する追加文献を探し読んでみる
3	経営経済学の範囲と性格(続き)、ケーススタディーの理解とディスカッション	グローバルなリーダーの資質に関するケーススタディーを読み、ディスカッションを行う	事前学習	2	ケーススタディーの理解と考察、クエスチョンシートへの取り組み
			事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの復習
4	経済学における最適化問題	経済的な関係性とは、制約条件とは、経済学における最適化(最大化)問題について	事前学習	2	ミクロ経済学の復習、配布したケーススタディーを予習
			事後学習	2	最適化問題とはどういうものか復習する
5	需要の理論(1)	需要の概念の復習、個々人の需要と市場における需要、限界効用と需要曲線、需要の価格弾力性と所得弾力性、需要の価格弾力性と経営における意思決定	事前学習	2	需要に関して復習しておく
			事後学習	2	需要の価格弾力性について、計算方法も含めて復習しておく
6	需要の理論(2)	無差別曲線と予算制約線、効用最大化、需要曲線の導出、所得効果と代替効果	事前学習	2	需要に関して復習しておく
			事後学習	2	最適化問題としての効用最大化について復習する
7	需要の理論(3)、需要に影響するものとは、ケーススタディーの理解とディスカッション	アメリカにおけるマクドナルドのハンバーガー需要の変遷に関するディスカッションと考察	事前学習	2	配布資料(ケーススタディー)を読み、クエスチョンシートに取り組む
			事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの復習
8	生産の理論(1)	生産関数とは、投入と限界生産性、最適な投入の組み合わせとは、等量曲線と等費用線、限界生産力逓減の法則、費用最小化	事前学習	2	供給に関して復習しておく
			事後学習	2	等量曲線と等費用線について復習する
9	生産の理論(2)	自動車による移動時間コストとガソリン・コストに関するディスカッションと考察	事前学習	2	配布資料(ケーススタディー)を読み、クエスチョンシートに取り組む
			事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの復習
10	コスト(費用)の理論(1)	固定費用と可変費用、短期・長期の費用関数、平均費用と限界費用、市場規模と企業数、規模の経済性と企業の大さ(最小効率規模)	事前学習	2	費用に関して復習しておく
			事後学習	2	規模の経済性と企業の大さ、企業数との関係について復習する
11	コスト(費用)の理論(2)	完全競争市場における利潤最大化、供給曲線の導出、完全競争市場の特徴	事前学習	2	完全競争市場について復習しておく
			事後学習	2	最適化問題としての利潤最大化について復習する
12	市場均衡とその特徴(1)	需要曲線・供給曲線を用いた完全競争市場における均衡の図解、均衡点の特徴、不均衡な点の特徴、消費者余剰・生産者余剰と社会的余剰、様々な政策効果の影響分析	事前学習	2	市場均衡の図解を復習しておく
			事後学習	2	余剰分析について復習する
13	市場均衡とその特徴(2)	市場構造と競争の程度、独占市場、寡占市場、独占的競争市場、独占市場における均衡の図解	事前学習	2	市場構造の種類と特徴について復習しておく
			事後学習	2	余剰分析の視点から市場形態の特徴が説明できることを復習する
14	企業の投資行動と資金調達方法、企業価値	投資決定の理論、利益処分と資金調達、モジリアニ=ミラーの定理	事前学習	2	割引現在価値、企業価値の決まり方について復習しておく
			事後学習	2	企業の資金調達方法として、内部留保を用いる他、新株発行や増資があることを復習する
15	寡占産業と企業間競争・企業形態、多角化、多国籍化、期末レポート課題の配布と説明	市場の集中度、寡占市場のモデル、寡占企業の効率性と利益率、グローバルな寡占企業、海外直接投資(FDI)と多国籍企業	事前学習	2	企業の成長とは何かについて考えておく
			事後学習	2	期末レポート課題に取り組む

区分	関連研究科目	科目名	ビジネス法律研究	担当者	北島 純
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	1年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無	有			
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	自己の研究を発展させる知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-3 主要な職能分野の専門的知識を補完し、各自の研究課題に関連した知識を習得する。			
講義の目的内容	本講義は、ビジネスを行う上で直面する「法律問題」について、主要な場面ごとに具体的なケースを取り上げて、「ビジネスと法律」についての理論的及び実務的な知見を深めることを目的とします。ビジネスに関わる法律には、民法・会社法から独占禁止法・不正競争防止法まで、様々なものがあります。そうしたビジネス法の基本的な知識を修得しつつ、ビジネスを遂行する上で直面する法律問題を想定してケーススタディを行います。本講義は、オンライン・ライブ方式で実施します。				
到達目標	(1)ビジネスに関わる主な法律を知り、必要な場面で規制の趣旨を調べることができるようになる。 (2)ビジネスにおいて法律をどのように利用できるか、事例を挙げて説明できるようになる。 (3)法律問題の回避・解決方法を学び、法適用の具体例を説明できるようになる。				
評価の方法基準	(1)評価方法 各自が担当する報告(30%)、質問・意見などの授業参加状況(30%)及び期末レポート(40%)により評価します。 (2)評価基準 評価基準【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60未満】				
参考文献等	教科書は使用しません。毎回レジュメを配付し、必要に応じ参考文献を指示します。				
実務経験の概要と	コンプライアンスの専門家として内外の企業の法務部門・コンプライアンス部門等に助言を提供してきた経験及びデンマーク王国大使館にて欧州企業による対日ビジネス進出支援等を行った経験に基づき、企業が直面する法律問題を手続面も含めて具体的に解説する。コンプライアンスの専門家として内外の企業の法務部門・コンプライアンス部門等に助言を提供してきた経験及びデンマーク王国大使館にて欧州企業による対日ビジネス進出支援等を行った経験に基づき、企業が直面する法律問題を手続面も含めて具体的に解説する。				

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	法律問題とは何か	法律問題とは何か、ビジネスといかに関係するのか	事前学習	2	軽犯罪法を調べてくる。
			事後学習	2	軽犯罪法における「正当な理由」の実例を一つ検討する。
2	法の執行(刑事)	ビジネス法律問題における法の執行(刑事)	事前学習	2	企業不祥事に対して刑事法はどのように執行されるか、考えてくる。
			事後学習	2	企業不祥事の裁判事例(刑事)を一つ検討する。
3	法の執行(民事)	ビジネス法律問題における法の執行(民事)	事前学習	2	企業に対する損害賠償請求はどのように遂行されるか、考えてくる。
			事後学習	2	企業不祥事の裁判事例(民事)を一つ検討する。
4	著作権法	著作権の侵害とその救済	事前学習	2	SNSにおける著作権侵害について、考えてくる。
			事後学習	2	著作権侵害が紛争となった事例を一つ検討する。
5	個人情報保護法	個人情報とプライバシー	事前学習	2	スマートフォンにおける個人情報の保護について、考えてくる。
			事後学習	2	企業による個人情報漏洩の事例を一つ検討する。
6	契約法	ビジネスと契約、債務不履行、損害賠償	事前学習	2	取引先に対する契約不履行で何が問題となるかを考える。
			事後学習	2	取引先に対する契約不履行が問題になった事例を一つ調べる。
7	労働法(労働者の採用)	労働契約法、男女雇用機会均等法、労働者派遣法	事前学習	2	雇用契約と契約自由の原則の関係を、考えてくる。
			事後学習	2	労働者の採用に関する紛争事例を一つ検討する
8	労働法(労働者の保護)	労働基準法、労働組合法	事前学習	2	労働条件に関する紛争を一つ調べてくる。
			事後学習	2	解雇権の濫用が問題となった事例を一つ検討する。
9	公益通報者保護制度	企業内の紛争解決、内部告発	事前学習	2	内部告発に関する事例を一つ調べてくる。
			事後学習	2	公益通報者が問題となった事例を一つ検討する。
10	会社法	株式会社の仕組み	事前学習	2	株式会社の行った違法行為の責任は誰が負うか、考えてくる。
			事後学習	2	株式会社の違法行為が問題となったケースを一つ検討する。
11	会社役員の権限と責任	取締役の善管注意義務、コーポレートガバナンス	事前学習	2	取締役の経営責任にどのようなものがあるかを考えてくる。
			事後学習	2	取締役の責任が追求された事例を一つ検討する。
12	企業の社会的責任	CSR、SDGs、ESG投資	事前学習	2	企業がCSR(社会的責任)を果たす上でなぜSDGsの視点が重要なかを調べてくる。
			事後学習	2	企業によるSDGsへの取り組み事例を一つ検討する。
13	市場における競争の公正と政府の公正	独占禁止法、贈収賄罪、不正競争防止法(外国公務員贈賄罪)	事前学習	2	市場の公正または公務の公正を害することがなぜ悪いことなのか、調べてくる。
			事後学習	2	独禁法違反または贈収賄罪が摘発された事例を一つ検討する。
14	消費者に対する責任	消費者契約法と製造物責任法	事前学習	2	消費者向け取引が事業者間取引とどう違うか、調べてくる
			事後学習	2	消費者問題のケースを一つ検討する。
15	まとめ	企業のステークホルダーごとに主な法律問題を挙げ、そのうちの一つについて、企業としての問題の解決方法と再発防止策を述べる。	事前学習	2	レポートの構想を練る。
			事後学習	2	レポートを作成する。

区分	関連研究科目	科目名	欧米ビジネス研究	担当者	セーラ バーチュリ
	開 講 期 間	春学期			
	選 択 ・ 必 修 の 別	選択			
	配 当 年 次	1 年			
	単 位 数	2 単位			
	授 業 形 態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	自己の研究を発展させる知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-3 主要な職能分野の専門的知識を補完し、各自の研究課題に関連した知識を習得する。			
講義の目的内容	<p>The increasing globalization of the market place affects all who are involved with business or who must make business decisions. Even those who are not directly involved in international business are affected in their domestic operations by international events and by the business activities of foreign entities. Therefore, it is imperative to be knowledgeable about the international business systems in Europe and North America.</p> <p>This course will introduce the concepts of international business in relation to various companies based in Europe and North America. It is important to remember that Europe is composed of fifty plus countries and consequently the business culture, business ethics and general value of business, can vary considerably amongst them. In addition, with the current situation involving Brexit and the COVID crisis, business professionals cannot afford to ignore what is happening in Europe and the impact that has on the wider global economy. Through in-depth case study discussion, analysis, and problem solving tasks in class, we will explore the major features of these North American and European companies.</p>				
到達目標	<p>In this course you will understand the following aspects of global business development and strategy:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Advertising strategies;</li> <li>Product differentiation;</li> <li>Strategic alliances;</li> <li>Innovation;</li> <li>UX Design and thinking;</li> <li>Cross-cultural business communication;</li> <li>Integrating web services;</li> <li>Understanding CSR and CSV;</li> <li>Globalization and business;</li> <li>Sustainability and ethics;</li> <li>Agility and flexibility in business;</li> <li>Alignment.</li> </ul>				
評価の方法基準	<p>授業中の平常点(出席・プレゼン・発言・研究・参加態度等)により評価します。          受講者の人数・能力、授業の進捗状況により、小テストを実施し、平常点に加えることもあります。          Case Analysis 40%, Presentation 20%, In-class discussions 20%, Final Report 20%</p> <p>詳細は、初回授業で説明します。          評価基準【S:90～100 A:80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】</p>				
参考文献等	Teacher prepared case studies, class TEAM for additional multimedia materials.				
実務経験の関連概要と					



	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	Business in Europe and North America	Breaking the Ice – Introduction to business in Europe and North America. Geography and basic sociocultural and economic considerations in the region. What is strategy? Does it differ between regions? What is the influence of politics on global business in these regions?	事前学習	2	Read course syllabus and expectations
			事後学習	2	Read Unit 1
2	1. FAANG (Facebook, Apple, Amazon, Netflix and Google) (USA)	Technology: Identity, value, innovation, ABC-M Landscape. The dominance of North America in technology. Exploring the impact of COVID-19 on the on-demand economy.	事前学習	2	Read Unit 1
			事後学習	2	Task: Choose a company in the service industry and explore how it can adapt to the on-demand economy. OR Choose an on-demand business and how it adapted during the COVID-19 crisis. Prepare your findings to present to the class next week.
3	2. Kraft Foods (USA/Europe)	Food and Beverage: Differing operating models for North America and Europe	事前学習	2	Read Unit 2
			事後学習	2	Explore Kraft in another European or North American country. How is the performance? Have they localized their products? What strategies have they used to enter the market? Prepare a short presentation and discussion questions about Kraft in these new markets.
4	3. Booking.com (The Netherlands)	Tourism and Hospitality: UX Design, design thinking, and the Netherlands as an innovation hub, innovations in the North American and European tourist industry as a result of COVID-19	事前学習	2	Read Unit 3
			事後学習	2	Choose a service site similar to Booking.com and create a User Journey map and Empathy Map for the site. Prepare a short presentation of your findings. How could the company improve their site based on your findings?
5	4. HSBC (UK)	Banking: Communicating across cultures; global banking, local approaches. Islamic Finance in European and American contexts.	事前学習	2	Read Unit 4
			事後学習	2	Look at the connection between religion and business. Find another example of a company or industry that is tightly connected to religion. What are the advantages of this? What are the disadvantages of this? This is a big difference between Asia and the West. How are companies and their business models. Products and services affected by or influenced by religion?
6	5. Nestle (Switzerland)	Food and Beverage: CSR, creating shared value in the supply chain.	事前学習	2	Read Unit 5
			事後学習	2	Choose a company and research about how they engage in Shared Value Creation.
7	6. Lululemon Athletica (Canada)	Sports Retail: Integrating with Amazon Web Services.	事前学習	2	Read Unit 6
			事後学習	2	Can you predict a trend in the health/lifestyle/exercise sector? Who is your customer? Why do they need the product? What is your product? When and Where would you sell it? How would you promote? How could you use AWS? Create a simple presentation to share your ideas.
8	7. L'Oreal (France)	Cosmetics, hair and beauty: Global brand and local knowledge, adaptation and flexibility.	事前学習	2	Read Unit 7
			事後学習	2	Male cosmetics is the next big beauty trend. Find a North American/European beauty company that has a male-focused line of products. Explore their marketing strategies. How are they appealing to the male market? Write 1x A4 page about the company, their male products, and their strategy.
9	8. Primark/Pennys (Ireland)	Fast Fashion: Sustainability, Corporate Social Responsibility, and ethics post-Rana Plaza disaster.	事前学習	2	Read Unit 8
			事後学習	2	Choose a recent business scandal. Analyse it from an ethics perspective: Why do you think it happened? Laziness, Greed, Confusion, Power, Complacency How was each level affected? (individual/moral character/relationships/the company?) What would you suggest for the future?
10	9. Cirque du Soleil (Canada)	Blue Ocean Strategies: Creating uncontested market space, breaking the value/cost trade off. How Cirque has weathered the COVID crisis.	事前学習	2	Read Unit 9
			事後学習	2	Choose a company and explore it using the Blue Ocean Mindset. Write and explain an ERRC Grid for the Company. Who are the Soon to Be, Refusing and Unexplored Customers?
11	10. Walgreens and Boots Alliance (USA and UK)	Retail Pharmaceuticals: Alignment of strategies, targets and policies with UN SDGs, plus how the retail pharmacies in North America and Europe supported COVID-19 vaccination delivery.	事前学習	2	Read Unit 10
			事後学習	2	Find a company from Europe/North America and introduce their SDG activities. Share with the class what YOU do to help the SDGs
12	Presentation Preparation	Preparing your research presentation	事前学習	2	Review of readings and PowerPoints
			事後学習	2	Prepare for research presentations
13	Presentation Session 1	Student research presentations in English or Japanese on a research topic selected and negotiated with course leader.	事前学習	2	Prepare for presentations
			事後学習	2	Peer-self evaluation and reflection
14	Presentation Session 2	Student research presentations in English or Japanese on a research topic selected and negotiated with course leader.	事前学習	2	Prepare for presentations
			事後学習	2	Peer-self evaluation and reflection
15	Evaluation and Feedback	Presentation evaluation, self and peer-review, reflection.	事前学習	2	Review whole course
			事後学習	2	Self-reflection Task

区分	関連研究科目	科目名	中国ビジネス研究	担当者	李 新建
	開 講 期 間		秋学期		
	選 択 ・ 必 修 の 別		選択		
	配 当 年 次		1 年		
	単 位 数		2 単位		
	授 業 形 態		講義科目		
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標		自己の研究を発展させる知識の修得		
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ		CP-3 主要な職能分野の専門的知識を補完し、各自の研究課題に関連した知識を習得する。		
講義の目的内容	<p>中国は 1970 年代末に従来の社会主義計画経済から改革開放路線に転換して以来、世界に類を見ないほどの高度経済成長を達成し、名目 GDP では 2010 年に日本を抜いて世界第 2 位の経済大国になり、購買力平価 GDP では 2014 年に米国を抜いて世界第 1 位に躍進した。近年中国経済は安定成長期に入り、経済大国から経済強国への構造転換に取り組んでいる。このような背景のもとに、中国ビジネスや中国企業の成長は世界から注目を浴びている。</p> <p>1980 年代ごろ日本企業の研究に基づいて新しい企業経営のコンセプトや理論体系が生み出されたと同様、中国ビジネスや中国企業の研究によりいわゆる“C理論”という新たな経営の理論体系の創出が期待されている。中国企業の実践(Chinese firm's practice)に基づいて、変革(change)、補完性(complementary)、キャッチアップないし追い越し(catch-up and beyond)、協働(co-evolution)などをキーコンセプトとする経営理論体系のことである。</p> <p>本講義は、受講生に中国の経済改革、中国ビジネスの特徴と動向、中国企業の成長と発展戦略、中国企業と日本企業との経営比較などに対する理解を深めてもらうことを目的とする。まず中国経済の改革開放の歴史・過程を把握し、その上で、ケース研究や文献検討により中国ビジネスの発展や中国企業の成長の秘訣を考察する予定である。</p>				
到達目標	<p>本科目の到達目標は以下の通りである。</p> <p>(1) 中国経済の改革開放の歴史と現状を理解できるようになる。</p> <p>(2) 中国ビジネスの特徴と動向を把握できるようになる。</p> <p>(3) デジタル時代の中国企業の成長戦略に対する理解を深めることができるようになる。</p> <p>(4) 中国企業と日本企業の経営比較に対する理解を深めることができるようになる。</p>				
評価の方法基準	<p>発表、議論への参加度合い及び期末レポートに基づいて評価する。</p> <p>配点は、レジュメによる発表・予習を 40%、授業への参加度合いを 30%、最終レポートを 30%とする。</p> <p>評価は 60%以上を合格とし、「S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60 未満」とする。</p>				
参考文献等	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考文献：  佐々木信彰(2018)『転換期中国の企業群像』晃洋書房。  高口康太(2017)『現代中国経営者列伝』星海社。  永井竜之介(2020)『リープ・マーケティング：中国ベンチャーに学ぶ新時代の「広め方」』イースト・プレス。  井上達彦・鄭雅方(2021)『世界最速ビジネスモデル：中国スタートアップ図鑑』日経 BP 社。  岡野寿彦(2020)『中国デジタル・イノベーション：ネット飽和時代の競争地図』日本経済新聞出版社。  野林健・長尾悟編著(2011)『国際政治経済を学ぶ：多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房。  江若塵・王丹編著(2017)『中国トップ 500 社ケース精選：中国大手企業の革新・転換の軌跡』シリーズ(中国語：“中国 500 强企业案例精选：寻求中国大企业创新转型发展的路径”)中国・经济管理出版社。</p>				
実務経験の関連概要と					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	中国という国とは	中国の政治体制と経済発展の概要	事前学習	2	事前は中国ビジネスや関心する中国企業の経営動向を調べておく。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
2	中国経済の改革開放: 中国学者の観点から	1970年代末から今日までの改革開放の軌跡	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
3	中国経済の改革開放: 外国学者の観点から	中国の国有企業改革	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
4	ケース研究(1)	ハイアール(海爾)	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
5	ケース研究(2)	レノボ(聯想)	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
6	中国のデジタル・イノベーション	中国のプラットフォーム・ビジネス	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
7	ケース研究(3)	アリババ(阿里巴巴)	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
8	ケース研究(4)	テンセント(騰迅)	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
9	ケース研究(5)	シャオミ(小米)	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
10	ケース研究(6)	ピンドウオドウオ(拼多多)	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
11	中国企業の飛躍的成長戦略(1)	中国企業における「加成型マーケティング」の観点	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
12	中国企業の飛躍的成長戦略(2)	中国企業における「未来型共創マーケティング」の観点	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
13	中国企業の飛躍的成長戦略(3)	中国企業における「ブルーバンド戦略」の観点	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
14	中国企業の飛躍的成長戦略(4)	中国企業における「ブリッツスケール戦略」の観点	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
15	総合発表と期末レポートの提出	第1~14回の内容に基づいて、期末レポートをまとめ、総合発表の後に提出する。	事前学習	2	これまでの講義内容や授業中の議論を振り返り、期末レポートをまとめておく。
			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。

区分	実践研究科目	科目名	ケーススタディ1 (マーケティング)	担当者	隈本 純
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	2年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	実践事例を用いて企業の社会的責任や法令順守等を含めた経営に関する知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-4 経営実践現場を想定したロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの技術を習得する。			
講義の目的内容	<p>将来マーケターを目指す人材にとって、マーケティング戦略の本質を理解するために、その理論的背景を学ぶことは極めて重要である。それと同時に、現実のビジネスの世界において企業が具体的にどのような行動をとり市場に適応しようとしたのかを様々な視点から独創的に検証するスキルを身につけることも必要である。</p> <p>本科目では市場環境分析やマーケティングミックスの各側面などのマーケティング戦略のキーポイントを深く理解するための具体的な企業・商品事例(ケース)を各回の授業に配置してある。受講生がそれらのケース分析課題を通じて当該企業活動を疑似体験し、グループ討議を通じて自らの戦略的判断の精緻化と現実妥当性の精度を向上させることを講義の目的とする。また、SDGs目標の「つくる責任、つかう責任」と関連している。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ケースに書かれている企業活動に関する実態、課題・問題点を理解すること</li> <li>2) 新たな情報を収集するなどして課題解決に向けた施策を多面的に考察し、提案として取りまとめるスキルを身につけること</li> <li>3) 効果的なプレゼンテーションを設計し、周囲の批判的考察に対して建設的な反駁ができるようになること</li> </ol>				
評価の方法基準	<p>各回のケース分析課題に関する準備・プレゼンテーション・討議参加度(40%)、課題成果の自己理解・論理一貫性・情報量(30%)、成果の独創性・説得性(30%)の3項目により、次の評価基準を用いて総合的に評価する。</p> <p>S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60 未満</p>				
参考文献等	<p>教科書; 青木幸弘(2016)「ケースに学ぶマーケティング」有斐閣ブックス ISBN 978-4641184268</p> <p>参考書については、クラスの講義内容に合わせて随時紹介していく。</p>				
実務経験の関連性					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	講義ガイダンスと導入授業	授業の概要、進め方、学習目標、成績評価方法、受講のルールなどについてガイダンスする。導入授業としてケーススタディの学び方について解説するとともに、教科書第1章の事例(CASIO G-Shock)について概説する。	事前学習	2	ケーススタディの方法論について事前に調べておくこと。
			事後学習	2	事後はこの授業で学ぶ授業内容について調べること。次回の授業課題に向けて準備をすること。
2	競争戦略	ライフネット生命のニッチャー戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
3	セグメンテーションとターゲティング	パナソニックの新たなセグメント創造戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
4	ポジショニング	スターバックスとドトールのポジショニング比較分析	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
5	消費者行動	はじめての結婚式列席用ドレス選び	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
6	マーケティング・リサーチ	Jリーグクラブのデータを使った分析とソリューションの提案	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
7	新製品開発	「お〜いお茶」の製品開発と競争	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
8	価格戦略	久原家の価格戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
9	流通経路戦略	ライオンの新たなチャネル構築戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
10	コミュニケーション戦略	アサヒビールの顧客コミュニケーション戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
11	新たなブランド構築	Pasco「超熟」ブランドの製品ライフサイクルとブランド拡張	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
12	サービスの本質	加賀屋の「おもてなし」	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
13	経験価値創造のマーケティング	東京ディズニーリゾートにみる価値創造の施策	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
14	関係性マーケティング	ハーレーダビッドソンの仕掛けるリレーションシップとは	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説とを照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を調べて理解を深めておくこと。
15	インターネットマーケティング、総括	東急ハンズのオムニチャネル戦略。講義全体のまとめ。	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
			事後学習	2	受講後は教科書全体を復習し、講義ノートを読み返しながら、今学期の学習内容について復習し、理解を深めておくこと。

区分	実践研究科目	科目名	ケーススタディ2 (ファイナンス)	担当者	畔上 秀人
	開講期間	春学期			
	選択・必修の別	選択			
	配当年次	2年			
	単位数	2単位			
	授業形態	講義科目			
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標	実践事例を用いて企業の社会的責任や法令順守等を含めた経営に関する知識の修得			
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ	CP-4 経営実践現場を想定したロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの技術を習得する。			
講義の目的内容	<p>本科目は実践研究科目であり、ファイナンス(金融)分野の発展的内容を学習するものである。ここでは、ファイナンスを利用する主体を企業、政府、個人(家計)に大別する。</p> <p>一般に、中小企業と大企業ではファイナンスの手法が異なり、前者に比べて後者の方が選択肢が多い。具体的なファイナンスの手法を学び、各ケースでの特徴を示してゆく。</p> <p>政府のファイナンスといえば、公債発行がすぐに想起される。しかし、これは主に財政学で論じられる内容なので、ここではPFIのケースに注目する。</p> <p>最後に、個人のファイナンスは身近なものであり、自身の現在、将来とも関連させて学習してもらいたい。例えば、貸与型の奨学金もパーソナルファイナンスの一つである。どのように返済していくかといったことも問題の一つである。</p> <p>以上から、多様なファイナンスの手法を、事例をもとに理解することが、本講義の目的である。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済主体が、その置かれた状況の下で選択できるファイナンスの手法として、どのようなものがあるかを調べられるようになる。</li> <li>・資金調達から始まり、返済が必要な場合は返済まで、一連のファイナンスの流れを理解する。</li> </ul>				
評価の方法基準	<p>(1)評価方法 取得した知識をもとに、レポートを作成し、提出する。授業参加態度と授業への貢献 40%、課題レポート 60%との基準で評価する。</p> <p>(2)評価基準 【S:90～100 A: 80～89 B:70～79 C:60～69 D:60 未満】</p>				
参考文献等	テキストは指定しない。				
実務経験の関連性と					

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	ファイナンスとは	基礎研究科目、基幹研究科目の履修において、ある程度ファイナンス(金融)に関する知識を身につけているという前提で、ファイナンスの意味を再考する。	事前学習	2	これまでに学んだファイナンスに関する知識を整理しておく。
			事後学習	2	経済主体ごとに異なるファイナンスが必要となる状況について、自分の認識になかったものを復習する。
2	コーポレートファイナンス①	コーポレートファイナンスとは、企業がその価値を最大化するように資金を調達し、企業活動を行うことである。ここでは、コーポレートファイナンスの概念と、銀行を中心とした間接金融に分類される機関からの融資について考察する。	事前学習	2	大きな企業が金融機関から融資を受けるとき、実際にはどのような方法になるのかを調べておく。
			事後学習	2	大企業への銀行融資は、新聞に報道されることもあるので、それらを調べて学習内容を復習する。
3	コーポレートファイナンス②	社債の発行による資金の調達について学習する。	事前学習	2	金融機関から融資を受ける場合と、社債発行による資金調達では、どのような違いがあるのかを調べておく。
			事後学習	2	実際にどのような企業から社債が発行されているのかを調べてみる。
4	コーポレートファイナンス③	株式の発行による資金の調達について学習する。	事前学習	2	金融機関から融資を受ける場合と、株式の発行による資金調達では、どのような違いがあるのかを調べておく。
			事後学習	2	株式市場から資金調達できる企業は、具体的に何社あるのか、調べてみる。
5	中小企業のファイナンス①	中小企業が金融機関から融資を受ける状況を考察する。大企業と異なる点の一つは、信用金庫や信用組合といった、組合組織の金融機関から融資が受けられるということである。	事前学習	2	中小企業の定義と、実際の企業の実態について調べておく。
			事後学習	2	金融機関側の融資姿勢を、金融機関のホームページなどで読み取る。
6	中小企業のファイナンス②	中小企業向けには様々な融資制度がある。それらについて、実例で学習する。	事前学習	2	中小企業向けの融資制度について、できるだけ調べておく。
			事後学習	2	金融機関融資と比べて、制度融資のメリットとデメリットを比較してみる。
7	中間レポート発表	大企業のケースを取り上げ、何を目的として、どのような方法でいくら資金を調達したのかをレポートする。そして、その資金調達は成功したといえるか否かを判断し、自分の意見を発表する。	事前学習	2	ケースとして課す資金調達事例に関する資料を熟読する。
			事後学習	2	他の履修者の発表を聴いて、学んだことをまとめる。
8	個人事業のファイナンス	通常、個人事業であっても、金融機関から融資は受けられる。ここでは伝統的な資金調達方法を学習する。	事前学習	2	金融機関が個人事業に融資する場合、法人との違いはどこにあるのかを考えてみる。
			事後学習	2	金融機関のホームページ等で、個人事業への融資条件を調べてみる。
9	パーソナルファイナンス①	個人が資金を必要とする場面を考え、その方法を考察する。	事前学習	2	個人が住宅を保有する場合や、高額な教育費を支払う場合、どのような資金調達方法があるのか、調べてみる。
			事後学習	2	実際の金融機関には、どのような個人向け融資のサービスがあるのか、調べてみる。
10	パーソナルファイナンス②	個人のライフプランを考え、その中で資金計画を立てる方法について学習する。	事前学習	2	個人のライフイベントとして、どのようなものがあるかを調べておく。
			事後学習	2	個人のキャッシュフロー表を、自分自身について作成してみる。
11	政府のファイナンス①	政府の資金調達方法を考察し、PFIという手法について解説する。	事前学習	2	政府の財政について調べておく。
			事後学習	2	国債の種類を調べてみる。
12	政府のファイナンス②	いくつかのPFI事例を取り上げ、考察する。	事前学習	2	事前に紹介したPFI事例について、自分自身でも調べておく。
			事後学習	2	講義で取り上げていないPFI事例も数多く存在するので、興味のあるものを調べてみる。
13	ファイナンス事例研究①	これまでの講義の中で紹介したファイナンスの種類について、履修者が興味を持ったものについて、事例を調べて発表する。	事前学習	2	企業、個人、政府のファイナンスの中で、興味を持ったものについて、事例を調べて発表の準備をする。
			事後学習	2	他の履修者の発表を聴いて、学んだことをまとめる。
14	ファイナンス事例研究②	これまでの講義の中で紹介したファイナンスの種類について、履修者が興味を持ったものについて、事例を調べて発表する。	事前学習	2	企業、個人、政府のファイナンスの中で、興味を持ったものについて、事例を調べて発表の準備をする。
			事後学習	2	他の履修者の発表を聴いて、学んだことをまとめる。
15	全体を通したファイナンスに関する議論	学習を通じて、ファイナンスの現状についてわかったこと、そして今後のファイナンス手法の発展について議論する。	事前学習	2	全体の学習を復習しておく。
			事後学習	2	一つの事例を選び、レポートを作成する。

区分	実践研究科目	科目名	ケーススタディ3 (ヒューマン・リソース)	担当者	横山 和子
開講期間		秋学期			
選択・必修の別		選択			
配当年次		2年			
単位数		2単位			
授業形態		講義科目			
実務経験の有無		有			
ディプロマポリシー(DP)における教育目標		実践事例を用いて企業の社会的責任や法令順守等を含めた経営に関する知識の修得			
カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ		CP-4 経営実践現場を想定したロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの技術を習得する。			
講義の目的内容	<p>1. 目的: グローバル化の深化、ICTなど急激な技術進歩や価値観の多様化など、大きく変化する時代を生き抜くには、次代を見通す力と、自らの考え、主張を培い、相手の主張を受け止めつつ、自らの主張を的確に発信、新たな創造につなげる力が必須となる。本講義では、これらの力の基礎となるロジカルシンキングとビジネスコミュニケーション能力の向上を目的に、特にビジネスや経営の現場で求められるより実践的なスキルの理解と習得、実践力をケース学習を通じ図る。</p> <p>2. 内容 ビジネス環境の理解： 東南アジアで起業経営を行っている日本人起業家の研究、PESTLE (Political,Economic,Sociological, Technological,Legal, Environmental) 分析を通じ東南アジア地域の経済・政治・社会の変化とその背景についての考察、討議を通じて、現実世界の理解ならびに FACT FINDING の大切さ、複眼思考の大切さを学ぶ。加えて、SWOT (Strength, Weakness, Opportunity, Threat)分析を実施することにより、学習するケース企業の経営資源の最適化の可視化を目指す。</p> <p>3. 進め方:より実践的に、討議中心。講義内容は適宜、変更することもある。 講義においては、理論倒れとならないように、原理・原則を踏まえつつ実践例の研究を通じて、より実際の、応用力につながる方向を目指す。</p> <p>(1)各講義の冒頭 20分は、経済・ビジネス・社会潮流に関するカレントなトピックスをケースとして取り上げ、問題提起と意見交換、解説を行う。</p> <p>(2)後半は、企業の現実に根差した具体的な事例を取り上げ、学生が研究発表を行う。発表後、クラス内で討議を行う。討議結果を踏まえ、原理・原則を整理・確認し、理論的な理解を深める。</p> <p>(3)上記(1)(2)とも、事前の課題を提示、予習の上講義に参加すること。 本講義は対面形式にて行う。</p>				
到達目標	<p>ビジネス現場における効果的なコミュニケーションの実現に向けての実践的ノウハウの理解・修得を目指す。</p> <p>(1)ロジカルシンキング(クリティカルシンキング)の基本を習得できるようになる。</p> <p>(2)効果的なコミュニケーションの重要性の理解とビジネスコミュニケーションの基本スキルの理解・習得ができるようになる。</p> <p>(3)課題の意図を理解できる能力を身に着けることができるようになる。</p>				
評価の方法基準	<p>(1)評価方法 「ビジネス」に関する基本的な知識とノウハウの習得について、講義参加、事前・事後学習、期末試験(レポート)により、総合的に評価する。</p> <p>(2)評価基準 講義への参加・取り組み姿勢(30%)、レポート(事前・事後学習)(40%)、期末レポート(30%)を総合評価し、60%以上を合格とする。 特に、講義への参加や取り組み姿勢を重視する。 S: 90~100 A: 80~89 B: 70~79 C: 60~69 D: 60 未満</p>				
参考文献等	<p>テキスト:横山和子他(2021).『東南アジアで起業する』. 文眞堂. 必要に応じて、ハンドメイドのプリントを配布する。</p>				
実務経験の概要と関連性	<p>国際公務員としての実務経験を活かし、職場で起こる問題等の解決方法を適宜紹介する。国際公務員としての実務経験を活かし、職場で起こる問題等の解決方法を適宜紹介する。</p>				



	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	ビジネススタディ 3 (ヒューマン・リソース)は何を学ぶ科目か?	本科目の狙い、授業の進め方、本科目と経営科目との関係、ビジネス・スタディズの検討すべき視点、領域・研究方法を中心に説明し、質疑応答を行う。授業の効果的な進め方についての意見交換も行う。	事前学習	2	ユニクロのグローバル人事制度、特に人材活用法について調べ、A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
			事後学習	2	楽天のグローバル人事制度を調べ、その取り組みを A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
2	【第 1 章】日本型雇用システムから成果主義型雇用システムへの移行	グローバル化が進む中、日本企業のグローバル化が着実に進んでいることを理解できることを目的に討議を行う。	事前学習	2	日本で女性の活用が遅れている理由について調べ、A-4 で 1 枚程度に整理し、レポートとして提出する。
			事後学習	2	何故日本デダイバーシティマネジメントが必要か、A-4 で 1 枚程度に整理し、レポートとして提出する。
3	【第 2 章】東南アジアの経済発展	世界銀行のデータを使いながら、東南アジア諸国の過去 20 年間の経済成長の過程を概観する。クラスでは今後、経済背張が見込める国、業種についての討議を行う。	事前学習	2	テキスト 12 頁、図表 2-1 から東南アジアの新興国について読み解くことができる事柄について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
			事後学習	2	東南アジアの新興国が豊かになっている理由を、例を挙げながら A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
4	【第 3 章】ケース：中国で起業する日本人起業家	報告学生が中国で起業経営を行っている 3 ケースの概要を報告し、中国の PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生とケースの特徴・将来性等につき討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事前学習	2	学生は中国の PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
			事後学習	2	中国、上海で事業を始める場合、どのような分野のビジネスが有望と考えられるか？リサーチを行い、事業分野の選択理由、将来性などを A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
5	【第 4 章】ケース：タイで起業する日本人起業家	報告学生がタイで起業経営を行っている 3 ケースの概要を報告し、タイの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生とビジネスを行う上でのネットワークングについての討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事前学習	2	学生はタイの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
			事後学習	2	海外で企業のトップと仕事をするためにはどのような知識、経験等が必要か？必要と考えられる事項を A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
6	【第 5 章】ケース：インドネシアで起業する日本人起業家	報告学生がインドネシアで起業経営を行っている 3 ケースの概要を報告し、タイの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生と国籍の重要性、自己のアイデンティティについての討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事前学習	2	学生はインドネシアの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
			事後学習	2	テキスト 61 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
7	【第 6 章】ケース：フィリピンで起業する日本人起業家	報告学生がフィリピンで起業経営を行っているケースの概要を報告し、フィリピンの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生と開業資金の獲得方法についての討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事前学習	2	学生はフィリピンの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
			事後学習	2	テキスト 68 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
8	【第 7 章】ケース：ベトナムで起業する日本人起業家	報告学生がベトナムで起業経営を行っている 3 ケースの概要を報告し、ベトナムの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生と日本での職務経験の重要性についての討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事前学習	2	学生はベトナムの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
			事後学習	2	テキスト 82 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
9	【第 8 章】ケース：カンボジアで起業する日本人起業家	報告学生がカンボジアで起業経営を行っている 4 ケースの概要を報告し、カンボジアの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生と社会起業家の意味についての討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事前学習	2	学生はカンボジアの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
			事後学習	2	テキスト 99 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
10	【第 9 章】ケース：ミャンマーで起業する日本人起業家	報告学生がベトナムで起業経営を行っている 3 ケースの概要を報告し、ミャンマーの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生とミャンマーで事業展開している多国籍企業についての討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事前学習	2	学生はカンボジアの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
			事後学習	2	テキスト 113 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
11	【第 10 章】キャリア計画一起業家の特性・資質	第 2 回から第 10 回までに学習したケース起業家の特性・資質等につき、受講学生と討議を行う。担当教員はファシリテータとして議論に参加する。学生は自分が海外で起業するための要件を満たしているかを確認する。	事前学習	2	自分が起業を行う予定国、事業分野について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
			事後学習	2	テキスト 125 頁、演習問題【タスク 1】に A-4 で 1 枚程度で答え、レポートとして提出する。
12	【第 11 章】起業準備	学習した課題国の PESTLE 分析を振り返る。また、課題国で事業展開している起業の SWOT 分析の振り返りを行う。	事前学習	2	第 11 章に紹介されている各留意事項について、自分の回答を行い A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
			事後学習	2	テキスト 136 頁、演習問題【タスク 1】、【タスク 2】に答え、レポートとして提出する。
13	ユニクロの Bangladesh への事業進出	Bangladesh のブランド、Youtube「Gramin・ユニクロ」を視聴し、学生と新興国での事業創出について検討を行う。	事前学習	2	Bangladesh、Bangladesh の縫製事業について調べ、A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
			事後学習	2	学生はユニクロの Bangladesh での取り組みの感想を A4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
14	【第 12 章】起業計画書の作成・提出	テキスト 140 頁、演習問題【タスク 2】に取り組み、起業計画書を作成し、提出する。	事前学習	10	起業計画書の作成する。
			事後学習	2	起業計画書の振り返りを行う。
15	最終授業：受講学生の起業計画書プレゼンテーション	受講学生が起業計画書を PPT を使用し、プレゼンテーションを行い、質疑応答を行う。	事前学習	3	起業計画書の PPT を作成する。
			事後学習	1	今学期の振り返りを行う。

区分	課題研究科目	科目名	現代経営特別演習
開講期間	通年		
選択・必修の別	必修		
配当年次	1～2 年次		
単位数	6 単位		

研究指導スケジュール

区分	1 年 次		
	春 学 期	夏 学 期	秋 学 期
教 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリエンテーション</li> <li>○履修ガイダンス</li> <li>○個別履修相談</li> <li>○研究指導 (30時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究指導 (30時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○履修ガイダンス</li> <li>○個別履修相談</li> <li>○研究指導 (30時間)</li> </ul>
学 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究計画書提出</li> <li>○個別面接指導</li> <li>○指導教員確定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究計画書確認</li> <li>○個別面接指導</li> <li>○文献調査及び実地調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究計画書確認</li> <li>○個別面接指導</li> <li>○論文中間報告会</li> <li>○論文作成</li> </ul>
区分	2 年 次		
	春 学 期	夏 学 期	秋 学 期
教 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリエンテーション</li> <li>○履修ガイダンス</li> <li>○個別履修相談</li> <li>○研究指導 (30時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究指導 (30時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究指導 (30時間)</li> <li>○論文審査及び修了認定</li> </ul>
学 生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別面接指導</li> <li>○論文計画書提出</li> <li>○論文作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○論文計画書確認</li> <li>○個別面接指導</li> <li>○調査研究のまとめ</li> <li>○論文作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別面接指導</li> <li>○論文研究発表会</li> <li>○論文提出</li> <li>○論文審査面接</li> </ul>

※研究指導における単位数の考え方

春学期：2時間/週 × 15週 = 30時間

夏学期：6時間/日 × 5日 = 30時間

秋学期：2時間/週 × 15週 = 30時間

年間3単位 × 2年間 = 6単位

\* 研究指導に限り夏期休業期間を利用した夏学期を設定

テーマ	家計や企業にかかわる諸問題の実証経済学的手法による研究	担当者	畔上 秀人
演習の目的・内容	<p>現代社会におけるほとんどの問題は、経済と関連している。それは、社会を形成する人々が、生産・分配・消費といった経済活動を行って生活しているためである。たとえば環境問題は、その実態の把握には自然科学分野からの分析が不可欠であるが、企業や家計の経済活動を念頭に置かない解決策は実効性を有しない。すなわち、環境問題を伴わない原料や技術が開発されたとしても、その価格が著しく高価であれば、普及は望めない。また環境問題を伴う物質の使用を一切規制するのであれば、自然科学による深い分析すら必要ではない。結局、問題による社会的厚生損失を減らしつつ、人々の経済活動をなるべく変化させない方法が実質的な解決策となる。</p> <p>一方で、社会的厚生の変化を経済理論だけに基づいて分析することも意味を持たない。理論的分析に用いた変数を代理する現実経済の数量を見つけることは、非常に難しいことが多いのである。たとえば、マクロ経済分析上現在では固定資本として扱われる企業のソフトウェアも、かつては中間消費として取り扱われていた。その移行過程を顧みれば、マクロ経済変数が実態と乖離していた期間があったとわかる。</p> <p>本演習では、受講者の関心に基づいて広い範囲の中から課題を設定し、経済学的手法で分析を進める。従って、事前に特定のテキストは指定せず、研究の途中で必要となることに適した参考文献を閲読する。1～2年次を通じて、データの収集と分析、考察を繰り返してゆく。</p>		

テーマ	グローバル化・デジタル化時代のビジネス戦略に関する理論的・実証的研究	担当者	李 新建
演習の目的・内容	<p>グローバル化やデジタル化が日増しに進んでいる時代に、企業を取り巻く環境は激変している。グローバルな競争に勝ち抜くためには国内経営と異なる経営アプローチが求められる。不連続な変化が常態的に起こるデジタル時代を生き延び・発展していくためには、技術革新（テクノロジー・イノベーション）と経営革新（マネジメント・イノベーション）の両方が必要とされる。如何にしてグローバルとデジタルな視点を持ち、複雑で不確実性が高い外部環境の変化に対応し、持続的な競争優位を構築するかが企業の生死に関わる重要な課題となる。</p> <p>本演習のキーワードはグローバル経営、経営戦略及びデジタル経営である。具体的には、グローバル経営、異文化経営、経営戦略の国際比較、デジタル戦略、経営革新等の問題を中心として理論研究及び実証研究を行う。実証研究の範囲は従来の製造業・サービス業からデジタル関連企業やコンテンツ企業まで、上場企業からファミリー企業までとする。ゼミ生の関心に合わせて日米欧及び中国・韓国の代表的な企業の事例を取り上げる予定である。同時に、ゼミ生の修士論文の作成のための研究指導を行う。受講生には、高い求知心と明確な問題意識を持って演習に参加することを求める。</p> <p>テキスト：ゼミ生の関心に応じて、適宜参考資料を配布する。</p> <p>参考文献：          江夏健一・桑名義晴（編著）『理論とケースで学ぶ国際ビジネス』（第4版） 同文館 2018.          根来龍之『集中講義デジタル戦略』日経BP 2019.          十川廣國『マネジメント・イノベーション』中央経済社 2009.          Bartlett, C. A. &amp; Ghoshal, S. <i>Managing Across Borders: The Transnational Solution</i>. Boston: Harvard Business School Press, 1989.          Collis, D. <i>International Strategy: Context, Concepts and Implications</i>. United Kingdom: Wiley, 2014.</p>		

テーマ	contemporary issues on marketing and consumer behavior (マーケティングと消費者心理に関する理論的かつ実証的研究)	担当者	隈本 純
演習の目的・内容	<p>As consumer's demands and lifestyles in industrialized countries become more complex and exquisite, the business communities confront a host of difficult issues of selling more products and services to meet his/her satisfaction. One of the key solutions is to search and enter new markets (or to target new segment) where can hold the promise of growth and larger profits. Comprehension of marketing concepts, construction of an unique business models with interdisciplinary approaches, will play an important role in such solution of running a business effectively and strategically.</p> <p>This special seminar mainly focuses on the logic of marketing strategies and how products and services are consumed in the global markets. It also covers key features of uncontrollable elements (geographical, cultural, economic, legal, etc.) of extrinsic factors of markets. Psychological / physiological factors affect decision making process of consumers are also analyzed. Students are required to conduct theoretical and/or empirical research based on the seminar contents. Classroom discussion with cases and business model presentations will complement lectures given by the instructor. References will be provided upon request during the course. なお、この特別演習は日本語、英語、両方の言語で対応して開講します。</p>		

テーマ	経済のグローバル化と賃金・雇用への影響に関する理論的かつ実証的研究	担当者	田中 巖
演習の目的・内容	<p>自由貿易の進展や多国籍企業による海外現地生産の拡大に象徴される経済のグローバル化は、国際的な価格競争を激化させて、国家間のみならず一国内における経済格差をももたらしているとよく議論される。国家が開放的であればあるほどその国の企業は国際競争力を高めなければならず、部品や資金、労働力をできるだけ低いコストで調達しようとする。したがって、日本のように製品輸出に過度に依存した経済では、円高になるだけである種の労働の国内需要は低下しやすいということが容易に類推出来る。そこで、本演習では実質実効為替レートの変動と東アジアにおける垂直的統合の展開について考察し、それらが日本の製造業における雇用と賃金に及ぼす影響について検討する経済学的分析方法を身に付けることを目的に研究指導を行う。</p> <p>1年次においては、世界のグローバリゼーションの流れを歴史的に概観し、先進国と発展途上国の間の所得格差、先進国内における賃金格差、発展途上国間に見られる格差について、統計データを用いながら現状を理解する。次に、日本的雇用形態の特徴とその変化を踏まえて、日本経済のグローバル化との関係について検討する。また、国際貿易理論を学習しその応用としてアメリカにおける貿易と賃金の問題を取り上げ、両者の関連性を捉える経済理論的枠組みを習得する。さらに、海外アウトソーシングやスウェットショップなどの国際的な経済トピックスを紹介し、自由貿易と競争の進展する社会で果たすべき政府の役割とは何か議論する。その上で、2年次における修士論文のテーマについて検討する。受講生には、英語の経済文献にも積極的に取り組もうという意欲ある姿勢を期待する。</p>		

テーマ	<b>Trends in International Human Resource Management: People, Place, &amp; Culture</b>	担当者	<b>セーラ・ルイーザ・ バーチュリ</b>
演習の目的・内容	<p>Managing human resources is a key area of business and management. Globalisation and the changing economic, demographic, and political landscape means how we define and study Human Resource Management (HRM) and how it should be put into practice, is constantly evolving and requires an international orientation.</p> <p>The aim of this seminar is to give you the knowledge, understanding, and skills required to empirically research, work with, and manage people in global organisations. Themes covered include internationalization, cross-cultural issues, team building, communication, motivation, talent management, issues related to diaspora, expatriation, and repatriation, ethical challenges of multinational corporations, training and development and the impact of digital transformation.</p> <p>In this course you will develop strong verbal and written communication skills and increase your intercultural awareness. We use contemporary research articles, white papers, and government reports to enrich lectures and stimulate academic discussion. The course also combines exploring new theoretical insights with practical research skill development. Students are highly encouraged to engage in field-research both in Japan and/or overseas and engage with a wider academic community through joining conferences.</p> <p>この特別演習は日本語、英語、両方の言語で対応して開講します</p>		

テーマ	<b>組織デザイン研究ないし経営学説研究</b>	担当者	<b>赤尾充哉</b>
演習の目的・内容	<p>企業組織は単に社会生活を営む場ではなく、特定の目標をより効率的・合理的・戦略的に遂行しようとするものであり、そのためのシステムを有するものでもある。それらシステムをいかにデザインすべきかというのは、企業組織を経営するにあたって、根本的に重要な問題である。本科目は、こうした組織デザインの問題を主たるテーマとして取り扱う。</p> <p>特に、技術変化の速度が速い今日の経済環境においては、組織の生存のために、より柔軟で敏速な組織体制が求められる。こうした問題には、意思決定理論、組織行動理論、進化の経済理論、ダイナミック・ケイパビリティ論などが大きく関わる。これらの理論は、本科目における研究の主要な理論的ツールとなる。</p> <p>本科目におけるアプローチは、実証研究よりも理論研究・学説研究を中心とする。必要に応じて、学説研究の方法論や科学哲学について学習する場合もある。</p>		

テーマ	企業活動におけるデザインを対象にした経営学的手法による研究	担当者	安藤 拓生
演習の目的・内容	<p>企業活動におけるデザインを対象にするデザインマネジメントは、1970年台の前半から経営学の一領域としてその研究が始まった。初期の研究では商品の色・形、コーポレートアイデンティティなどの有形のデザインが対象にされていたが、その後の実務領域におけるデザイン対象の拡大に伴い、サービスや顧客経験のような無形物のデザインをも対象に含むようになっていった。このような変化のもと、現在ではデザインはより広義に認識されるようになり、その考え方や思考方法のビジネスへの応用といった側面にまで研究が広がっている。</p> <p>本演習では、企業活動におけるデザインを広義に捉え、受講生の関心に基づいてこれに関連したテーマを設定し、さまざまな周辺の課題を扱いながら研究の方法を学んでいく。特に、デザインを企業経営の一つの要素として捉え、経営学的手法で分析を進める方法を学ぶ。従って、事前に特定のテキストは指定せず、研究の途中で必要となることに適した参考文献を閲読する。1～2年次を通じて、テーマの設定からデータの収集と分析、考察を通して研究を実践していく。</p>		

テーマ	金融経済に関する実証研究	担当者	富田 洋介
演習の目的・内容	<p>本講義では制度経済学の視点から金融経済を多角的に分析する。制度経済学とは、各国の制度的背景を重視し、画一的な理論では導き出せない各国の諸事情を踏まえて理論化し、その事象について実証的に検証する学問である。したがって、経済・金融・企業財務・法環境・歴史といった数多くの分野に触れる機会を持つであろうが、その都度丁寧に内容を解説していく。</p> <p>特に金融機関（投資運用、銀行、証券、投資顧問、投資信託、保険）や金融制度（証券制度、資産管理、決済、為替など）企業金融（コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス、企業価値評価）もしくは金融政策に興味があり、熱意のある学生さんを歓迎する。</p> <p>上記以外でも、金融経済もしくは実証研究に興味のある学生さんについても歓迎する。</p> <p>同時に、院生さん各自のテーマに基づき、計量経済学や多変量解析を中心とした分析手法を身に付けて頂けるように指導する。したがって、ある一定の数学的な能力が求められるため、初学者の場合にはより一層の努力を要求する。（数学は論文の読み・書きに必要な直感的な理解を優先して学習していただく。）</p> <p>講義としては、学生さんの興味のある論文の精読からスタートし、その論文にて使用されている分析ツールの習得と理論の構築方法を学習する予定である。</p>		

テーマ	会計の管理・統制機能における理論研究	担当者	小川華代
演習の目的・内容	<p>会計は実務の中から発生し、今日に至るまで、企業をとりまく経営環境の変化に応じて姿を変えてきた。つまり、会計はある一時点で生成されたものではなく、歴史的所産であると言える。そして会計諸概念や会計基準、また管理手法などは必要に応じて変化をしてきたのである。会計学研究を行う際には、会計が様々な要因の下に形成されていることを念頭に置かなければならない。したがって、会計学研究では、会計諸問題について究明を行うとともに、会計をとりまく経営・経済についても広く分析を行う必要がある。</p> <p>本演習では、受講者の関心に基づき、会計に関する研究を進める。1年次には受講者のレベルに応じて講義を進めるため特定のテキストの指定は行わない。会計に関する基礎的な理解をした上で、課題設定を行い、先行研究を整理し、研究方法について指導を行う。実証研究ではなく理論研究をメインに指導を行い、研究の進捗度に応じて必要な文献を提示する。</p>		

区分	基礎科目	科目名	経営学研究	担当者	安藤 拓生/ 赤尾 充哉
	開講期間		通年		
	選択・必修の別		選択		
	配当年次		1年		
	単位数		4単位		
	授業形態		講義科目		
	実務経験の有無				
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標		現代的な経営課題の学習に取り組むために求められる知識の修得		
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ		CP-1 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。		
講義の目的内容	<p>本科目は、大学院における学習・研究を効果的に行うための基礎科目に属する。したがって、現代経営学部(経営学部)出身の入学者にとっては既に学習してきたことの整理・確認および理解を深める機会として、他学部・他分野からの入学者にとっては経営学の基本的な知識を習得し、研究活動の礎を形成する機会となる。</p> <p>講義内容は授業計画に記載するように経営学全般にわたる。各回、テキストをもとに事前学習していることが前提として講義を進行し、理解確認のためのフォローや関連課題の討議を中心に行う。また、現代の企業経営における実践的なケースを紹介し、経営理論と結びつけて考える習慣を醸成していきたい。</p> <p>なお、第1～15回(春学期)を安藤、第16～30回(秋学期)を赤尾が担当する。</p>				
到達目標	<p>(1)経営学の基礎的知識を習得・確認する。</p> <p>(2)経営学を体系的に理解し、統合的・学際的な思考力の向上を図る。</p> <p>(3)マネジメントの諸理論をベースとし、現代的な諸問題の解決や課題の達成に向けた思考力の向上を図る。</p>				
評価の方法基準	<p>(1)評価の方法 経営学に関する基本的な知識とノウハウの習得、ディスカッションなどの授業参加、事前学習・事後学習、レポート、期末レポートにより総合的に評価する。</p> <p>(2)評価基準 授業参加 30%、レポート(事前・事後学習) 30%、期末レポート 40%とし、60%以上を合格とする。 S: 90～100 A: 80～89 B: 70～79 C: 60～69 D: 60未満</p>				
参考文献等	<p>(1)テキスト 初回講義時に指定する。</p> <p>(2)参考文献 井原久光『テキスト経営学(第3版)』ミネルヴァ書房、2008年 ハーシー、ブランチャード&amp;ジョンソン『行動科学の展開[新版]-人的資源の活用』生産性出版、2000年 ダフト『組織の経営学』ダイヤモンド社、2002年 大滝精一・山田英夫・金井一頼・岩田智『経営戦略[新版]』有斐閣、2006年 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣、2008年 チャンドラーJr『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社、2004年</p>				
実務経験の関連性					



	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	経営学の学び方(1)	授業の進め方、事前事後の学習について解説する。基礎知識や経営分野における関心を確認する。	事前学習	0	なし
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
2	経営学と企業制度(1)	経営学の学問的位置づけを学び、理論と実践の調和について考える	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
3	経営学と企業制度(2)	株式会社の仕組みを理解し、ステークホルダーとの関係を考える	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
4	経営戦略(1)	経営戦略の位置づけについて理解する。	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
5	経営戦略(2)	ポーターの競争戦略について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
6	経営戦略(3)	資源ベース理論について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
7	経営戦略(4)	3つの経済性について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
8	経営管理と組織(1)	伝統的な管理理論について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
9	経営管理と組織(2)	行動科学の理論について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
10	経営管理と組織(3)	組織構造について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
11	経営管理と組織(4)	組織文化について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
12	人的資源管理(1)	人事制度・人事評価制度について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
13	人的資源管理(2)	賃金・労働時間にかかる問題について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
14	人的資源管理(3)	人材育成とキャリアにかかる問題について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
15	春学期総括	春学期に学習した内容を振り返る	事前学習	4	春学期の授業で配布した資料、ノートなどを読み返し内容を復習しておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
16	経営学の学び方(2)	授業の進め方、事前事後の学習について解説する。基礎知識や経営分野における関心を確認する。	事前学習	0	なし
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
17	マーケティング(1)	マーケティング・コンセプトについて理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
18	マーケティング(2)	マーケティング・ミックスについて理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
19	マーケティング(3)	STPマーケティングについて理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
20	マーケティング(4)	イノベーションについて理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
21	マーケティング(5)	市場調査について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
22	製品開発と生産管理(1)	生産管理活動について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
23	製品開発と生産管理(2)	生産形態について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
24	製品開発と生産管理(3)	製品開発について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
25	製品開発と生産管理(4)	デザイン・マネジメントについて理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
26	会計学(1)	企業会計の基礎を理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
27	会計学(2)	経営指標について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
28	企業倫理(1)	企業の社会的責任について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
29	企業倫理(2)	企業不祥事について考える	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
30	秋学期総括	秋学期に学習した内容を振り返る	事前学習	4	秋学期の授業で配布した資料、ノートなどを読み返し内容を復習しておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。